

■取組み1「基礎学力定着(小・中)」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
少人数授業の取組みが良い, 拡大すべき	39
基礎学力をしっかり身に付けさせてほしい	27
教員の力量が重要	24
非常に重要な取組みである	18
クラス等で差が出ないように取組むべき	16
1学級の人数を減らしてほしい	14
「基礎・基本」定着状況調査が良い, 拡大すべき	12
基礎学力が定着してきている	11
授業時数等を充実させるべき	11
基礎学力が付いていない	10
個々の能力に合った取組みが重要	10
学校ごとに取組みにばらつきがある	9
少人数授業等の取組みがされていない	9
「基礎・基本」調査は事前に訓練しており問題がある	9
会話・コミュニケーションが重要	8
TTや習熟度別の取組みが良い, 拡大すべき	6
小学校低学年でしっかり取組むべき	6
「基礎・基本」定着状況調査後の指導を充実すべき	5
「読む」・「書く」といった取組みに力を入れるべき	5
家庭でのフォローが大切	4
「基礎・基本」定着状況調査の必要性を感じない	4
その他	163
生きていくために必要な力を身に付けることが大切	
会話・コミュニケーションの力が付いてきた	
子どもに興味を持たせることが重要	
少人数教育が重要と思わない	
など	
計	420

■取組み2「学力向上(高)」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
目的意識を持って学ぶことが重要	22
見識者の話や大学の授業等は将来を決めるのに良い	14
大学進学が強調されすぎている	14
学校間の格差がある, 広がる	13
指定校以外の学校にも力を入れるべき	11
教員の力量が重要	10
自ら進路を選択することは重要	9
学力だけでなく生きていくための力を	8
小(中)学校段階からしっかりやるべき, 高校からでは遅い	8
学力が付いていない	5
自主的・自立的に取り組むことが重要	5
選択肢を増やして進路選択につなげることが重要	5
学力が向上している	4
重点校等の取組みは良い, 拡大してほしい	4
生徒一人一人に応じた進路指導が重要	4
大学教員の授業が本当に良いか疑問	4
今の取組みを続けてほしい	3
自らの学力を把握することは重要	3
共通学力テストの取り組みは良い	3
その他	111
いろいろな大学との交流が必要 家庭との連携が必要 社会人となるための心構えが重要 論理的思考力や課題解決能力を養うことが重要 共通学力テストの必要性は感じない 入学後に, 進路変更が可能となるようなシステムにすべき など	
計	260

■取組3「ことばの教育県づくり」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
コミュニケーション能力が落ちてきており非常に重要	32
日ごろからの家庭等での取組みが重要	27
言葉が乱れており重要	19
教員の力量が重要	18
特定の学校だけでなく全体で取り組むべき	17
取組みが見えてこない	16
正しい言葉の使い方を学んでほしい	15
「読む」「書く」といった機会の充実が必要	15
教員が子どもと接する際等の言葉使いに注意をはらうべき	11
テレビなどで乱れた言葉が使われ問題	10
まず大人がしっかりするべき	9
自己表現できることが重要	7
時と場所,相手に応じた言葉遣いが重要	7
不十分であり一層進めてほしい	6
様々な機会を捉えて啓発すべき	5
非常に重要な取り組み	5
学力だけでなく心の豊かさも育てる	4
ことばの力が付いてきている	4
専任司書を増やすべき	3
その他	109
家庭や地域との連携が重要 知識だけでなく使いこなせるようにすべき 発表の機会が重要 非言語的な能力も重要 など	
計	339

■取組み4「実践的な職業教育」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
職場体験等の取組みが良い,拡大すべき	43
働くことの意義等を教えてほしい	18
目標を持って取り組むべき	14
非常に重要であり,一層進めてほしい	12
地域や産業界との連携が重要	11
日ごろからの家庭等での取組みが重要	8
夢や希望を育ててほしい	8
教員がもっと社会の情報を知るべき	7
幼稚園や小学段階から取り組むべき	7
あまり早いうちからすると弊害もある	6
様々な体験が重要	5
職場体験は生徒の希望を反映することが重要	5
取組みが見えない	5
必要性を感じない	5
教育現場で社会人をもっと活用すべき	4
長期の職場体験が必要	4
どういった仕事があるかをしっかり教えることが重要	4
道徳観や倫理観を身に付けることが重要	4
指定校以外でも取り組むべき	4
技術を持った人に教わるのが貴重な体験になる	3
忍耐力を身に付けることが重要	3
仕事の大変さを感じさせることが重要	3
社会のルールや常識を教えることが重要	3
企業の負担が大きすぎる	3
不十分であり一層進めてほしい	3
その他	120
仕事の楽しさを教えることが重要 身近な人の仕事を見るのが重要 自ら将来を決めることが重要 地域格差があり難しい 良い結果が出ている 成果が上がっていない アルバイトは認めるべき など	
計	312

■取組み5「障害児教育充実」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
教員の専門性が重要	20
健全な生徒との交流が重要	12
軽度発達障害の子どものサポートや研修会等も充実すべき	11
自立するためのサポートをしっかりとすべき	10
個に応じた体制づくりと指導が重要	8
障害をもった子どもも健全な子どもと同じ学校へ行くべき	8
健全な子どもと障害をもった子どもがお互いに相手を理解することが重要	7
取組みの情報が入ってこない	7
教員の姿勢がまず大事	6
健全な児童の障害をもった子どもへの態度の育成が重要	5
健全者と障害者が普通に接することができることが重要	5
一層充実を望む	5
教員が不足している	5
進路指導にしっかり取り組んでほしい	5
継続してきめ細かな指導をしてほしい	4
学校や学区により取組みにばらつきがある	4
地域の協力が必要	4
障害児学校の専門性が重要	3
施設や運営面の予算充実を	3
障害児学級に補助教員が必要	3
障害児学校が不足している	3
非常に重要な取組み	3
保護者が勉強すべき	3
その他	73
社会の受け入れ体制が重要 障害者の立場に立った施策が重要 障害をもった子どもは障害児学校で専門的な教育を受けた方が良い 地域の人や保護者が学校を訪れるような取組みが重要 適正な就学指導ができているか疑問 福祉や企業との連携が重要 など	
計	217

■取組み6「学校における体力向上」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
家庭での取組みが重要	15
日ごろから外で遊ぶことが重要	15
学校が体力づくりを後押しするのが良い、一層進めてほしい	14
体力が落ちており重要	14
体育の授業時数が不足している	13
学校、家庭、地域が連携することが重要	10
安全な環境が重要	10
忍耐力や自信につなげるため重要	9
楽しんでできることが重要	9
個に応じた指導が必要	8
運動する場所が必要	7
学校でも外で活動することをもっと取り入れるべき	7
体力不足であり、もっと歩き、走ることが重要	7
毎日の積み重ねが重要	7
地域や家庭でも外で遊べる環境が必要	6
基本的な生活習慣の家庭への啓発が重要	5
食育の強化が必要	5
学力を付けるためにも重要	4
学校だけではできない	4
クラブ活動が重要	4
地域や学校によりばらつきがある	4
小学校でも体育専門教員を配置すべき	4
体力テストの取組みが良い	4
非常に重要な取組み	4
学校での取組みの時間が不足している	3
競わせることが重要	3
具体的な取組みが伝わってこない	3
クラブ指導者が不足している	3
体力テストの結果を指導に活かすことが重要	3
体力テストの数字をあまり重大に考える必要はない	3
放課後学校で遊べるようにすべき	3
マラソン大会等は必要	3
教員の力量が重要	3
その他	100
プロの選手などによる指導を取り入れるべき 研修で学んだことの実践が重要 運動する機会をもっと増やすべき	

■取組み6「学校における体力向上」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
子どもが自由に遊ぶことが良い 子どもに時間がない 自然に身に付くべき トップアスリート育成も必要 教員に時間がない など	
計	316

■取組み7「生徒指導上の諸問題解決」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
親への支え, 指導が重要	17
学校, 地域, 保護者が一体になって取り組むべき	15
スクールカウンセラーを充実してほしい	15
教員の対応が重要	10
学校の状況をオープンにすることが重要	9
学校と家庭が真剣に取り組むべき	7
原因を明らかにして取り組むことが重要	6
相談員等を充実させる必要がある	6
日ごろから学校も家庭も目を配ることが重要	6
強い精神力を養う必要がある	6
大人がしっかり努力する必要がある	5
教員の資質向上が重要	5
教員にもっと余裕が必要	5
学校全体で取り組むことが重要	4
家庭がしっかり取り組むべき	4
非常に重要であり, 一層取り組むべき	4
いじめ, 不登校等は早期の対応が重要	4
声かけが重要	3
厳しい指導が必要	3
親・教員へのサポート, 指導が重要	3
子どもの居場所は重要	3
スクールカウンセラーには相談しにくい	3
その他	111
人間関係が重要	
個に応じた指導が重要	
長期的な視野にたった取り組みが必要	
立ち直り支援は重要	
地域の活動を周知すべき	
1学級の人数を減らしてほしい	
スクールカウンセラーは小学校にも必要	
スクールカウンセラーは必要ない	
など	
計	254

■取組み8「豊かな心を育む教育」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
大人が手本になるべき	16
家庭での取組みが重要	16
道徳教育をしっかりしてほしい	14
非常に重要であり一層取組んでほしい	9
教員の力量が重要	9
夢や想像力を養ってほしい	8
教員のモラルが重要	8
様々な体験を通しての指導が重要	7
親に対する取組みが必要	7
学校と家庭が連携した取組みが重要	7
現実とのかい離がある	7
命の大切さを学ぶことは重要	6
取組みが見えない	6
拠点校でなく全ての学校で日常的にすべき	5
日頃から家庭や地域で道徳心を育てるべき	4
地域ぐるみの取組みを推進してほしい	4
成果が感じられない	4
教員が道徳教育の重要性を意識すべき	4
普段からの指導が重要	3
日本の歴史、伝統や文化をしっかり教えるべき	3
道徳の時間を増やすべき	3
身近に共感できる人の話や体験が重要	3
社会で役立ちたいという価値観が重要	3
時間をかけてしっかり取組むべき	3
子どもに届いていないのではないか	3
学力以外のこうした学習が将来役立つ	3
その他	114
正しい言葉遣いや忍耐力が重要	
社会で生きるルールやマナーをまず教えるべき	
人を思いやることが重要	
自分を大切にすることが人を大切にすることにつながる	
自分が必要な人間だということを自覚できることが大切	
広い視野を持った人間を育てるべき	
公正に競争することは大切	
教員の人間的魅力が必要	
親や教員に余裕がない	
子どもにゆとりがない	

■取組み8「豊かな心を育む教育」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
取組み事例の公開と普及が必要 パイオニアスピリット養成セミナーを拡充してほしい など	
計	279

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
教員に高い倫理観と豊かな人間性が必要	23
ゆとりを持って教員が子どもと接することが必要	23
指導力不足が深刻な教員もいる	19
不適格教員に厳正な対処が必要	17
教員が忙しすぎる, 仕事を精選すべき	14
教員にプロとしての自覚が必要	10
人間性に課題がある教員もいる	10
教員の質にばらつきがある	10
教員の個性を良い方向に発揮してほしい, もっと面白い授業があるべき	9
教員の評価を厳しくすべき	9
教員も多様な体験が必要	8
教員の威厳やリーダーシップが必要	8
教員に子どもと接する力が必要	8
良い方向に向かっており, 一層進めてほしい	7
担任により大きな差が出ないようにすべき	7
最低限の力をチェックして保つ必要がある	7
教員の研修等はゆとりをもって行うべき	7
評価する側が重要	7
評価に重点を置くべきでない	7
効果が見えない	7
採用時に厳しく人選するべき	6
生徒や保護者が教員を評価できるシステムが必要	6
教員のサラリーマン化が進んでいる	6
教員の指導力向上は必要不可欠	6
最も重要な取組み	5
公正に指導力を評価することが重要	5
教職員の研修は非常に重要	5
教員間の連携が必要	5
教員には子どもの生き方, 考え方を含めた指導力が必要	5
民間派遣研修は重要, 拡大すべき	4
教員は熱意をもって指導に当たるべき	4
その他	112
自己研鑽は自らの負担で行うべき	
研修で教員不在時のフォローが必要	
教員の数を増やすべき	
教員の指導力向上に向けた姿勢が重要	

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
教員に社会の変化に対応できる感性が必要 教員にコミュニケーション能力が不足している 管理職に問題がある 社会人経験者を採用すべき 教員間にも競争が必要 ゆとりをもち教員が健康であることが重要 教員への締め付けが強すぎる など	
計	386

■取組み10「学校教育改革推進」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
学校経営組織の更なる充実が必要	43
意見を施策に反映してほしい	24
県民の意見を取り入れる制度は必要	22
アンケート内容, 方法の改善が必要	13
今後も継続すべき	6
意見を聞く対象をさらに広げるべき	5
教育に関する情報を得ることができる	5
エキスパート教員の認証はしっかりしてほしい	4
学校において保護者の意見をもっと聞いてほしい	3
学校経営の改善の成果が見られる	3
その他	82
本来教員はエキスパートであるべき 教育に関心をもつことができる取組みである 校長の指導力により学校がよりよくなってきた 真剣に取り組んでほしい など	
計	210

■取組み11「開かれた学校づくり」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
開かれた学校づくりができています	30
保護者に関心を持たせる努力をしてほしい	28
「学校へ行こう週間」には行きにくい, 周知不足など課題がある	22
学校のHPは情報不足, 更新が遅いなど不十分	19
進んでいない	17
「学校へ行こう週間」は良い, 更に充実してほしい	16
防犯の観点からも, 地域, 保護者との連携は大切	16
防犯面(安全性)から課題がある	16
学校と地域のつながりが重要	15
学校のHP等の広報が充実している	10
もっと分かりやすく, 行き渡るよう学校の情報提供をすべき	10
今後も積極的に取り組んでほしい	9
開かれた学校づくりは大切	9
学校の負担が大きい	7
学校評議員制度は形骸化しているなど課題がある	6
悪いことを隠す傾向を改善すべき	5
学校と保護者との連携が重要	4
学校評価をもっと進めるべき	3
学校を評価することは困難	3
開かれた学校づくりができていますが, 安全面が大切	3
保護者の意見を聞き入れられていない	3
その他	59
お役所仕事になっている 教育のプラスになっているのか, 危惧する くりっぶ等、広報紙を地域の人々にもっとPRすべき 子どもと向き合う方が大切 など	
計	310

■取組み12「開かれた学校づくり」に関する自由意見(一般)

主 な 意 見	人 数
施設設備整備が不十分なので改善してほしい	42
施設設備は重要であり、一層取組むべき	31
学校間の差が大きい	17
安全性を強化してほしい	16
調査・点検・保全の実施が必要	12
老朽校舎の改築を進めてほしい	9
耐震補強を早急に進めるべき	7
小中学校等の施設設備整備が必要	6
ハード事業よりもソフト事業を優先すべき	6
特色ある学校づくりは重要	5
専門高校・専門学科の充実が必要	3
取組みが見えない	3
その他	54
施設よりも人が重要 経費をかけすぎないようにするべき など	
計	211

■取組み1「基礎学力定着(小・中)」に関する自由意見(教員)

意見の概要

少人数で指導することで児童生徒の反応や実態を的確につかみ、個に応じた指導をすることができると考えています。

きめ細かな指導ができるように、少人数授業を実施とありますが、高学年ではなく、低学年からも必要と思う。少しずつの積み重ねが日々重なっていつている。(自分の学校では高学年になっている。)

はばたきプランについては、本校にも配置していただき、学級の安定・学習指導の定着に大きく貢献していると思う。はばたきの先生にも力がついてきていると思う。

本校の2年生がはばたきプランに該当している。2年生は少人数授業が行われ、きめ細かな指導ができています。そのため、基本的な生活習慣も身につく、基礎学力の定着もよい。どの学年も少人数授業ができれば、より確かな学力の定着を図ることができるのと思っています。

基礎学力の定着を図るため、少人数授業をすることは、たいへん重要であり成果があると思います。きめ細かな指導ができるので保護者の方もとても望まれているので、小1・小2だけでなくすべての学年に実施されるよう強く実施します。

個に応じたきめ細かな指導を行うためには、少人数授業及び複数教員による指導は必要である。

少人数授業で、指導者が多いということは、わからないところについて、時間をとって学習でき、つまづきが少なくなるし、今まで、聞けていなかったことも、気軽に質問しやすくなっている。

小学校1・2年生ははばたきプランの実施により、効果的に運用している。3年生の移行におけるギャップがおおきいので何らかの措置が欲しい。

学級平均35人を超えない学級であっても実態に応じて複数教員による指導が行えるように要望します。

・少人数指導は30人以上のクラスで可能となっているが、国、数、英はできるだけ少人数であるのが有効的だと思います。したがって30人以内でも実施できることを望みます。
・基礎基本の調査は分析をし、指導には役立ちますが、やはり、管理職・保護者は平均点とのかねあいを気にしているため、本来の主旨とは違う気がします。

少人数指導の指導方法は、ITを取り入れることがより実践的であると考えています。

対象となる非常勤講師の確保が困難である。

少人数指導の大切さの一方でそれを実現するための教員(特に数学)の確保が現実的にとてもきびしい。講師ではなく、正採用教員で行うべきである。

少人数授業は必要だと思うが、非常勤講師だと、放課後生徒が聞きたい時に、いない現状がある。定着状況調査は、点数ばかりに目が行きがちである。

中1のはつらつプランで、2学級を3分割すると、学校づくりをしている時に、他クラスと混合クラスができ、落ち着かない学年になりやすい。国語の習熟度別の場合、意見交流の苦手な生徒ばかりのクラスができやすい。基礎基本定着状況調査を前年度と単純に比較するのは意味がない。小5の時のデータの比較があつてはじめて今の中2の状況が客観的に分析できる。ただし、100%近い生徒が地元の中学校に進学することが前提になるが。

本校1クラス10～16名なので少人数は難しいまた、余剰人員もいない状況もある。

少人数授業や少人数学級は有効だと思うが、習熟度別授業は百害あって一利なしと言っても過言ではないと思う。その理由は、①意見の多様化が期待できない②児童の自分に対するまちがった評価につながる③グループ分けのための作業が煩雑で打ちあわせ時間がかかり過ぎる。調査が本当に効果につながっているのか疑問である。忙しさが大きい。

来年度で「基礎・基本」定着状況調査も第5回目を迎えますが、子どもたちの学力の定着状況を判断する1つの指標となっているので、指導方法の工夫改善につながると考えている。

「基礎・基本」定着状況調査に関しては、学校で集計する形になっているが、公正な結果を得るためには、業者委託などの措置が必要ではないかと感じている。

少人数授業は重要であると思うが、基礎基本テストは毎年似たような問題があるので、事前にとり組むのかしないかで大きな差が出るのではないかと疑問である。

基礎学力を定着させることは大切であると思います。しかし、「基礎・基本」定着状況調査のため、事前にテストを繰り返すなど正確に状況が調査されているのか疑問に感じます。また、担任がデータを集計するなど負担も大きいです。

基礎学力の定着を図ることは大切なことですが、定着状況調査の内容が不満です。問題数が少ない中で本当に観点(領域)別の学力がわかるのか。

学力テストの平均点に着目し過ぎていて、生活力には目が向いていない。各学校、教育委員会も全国との差を前面に出している。学力テストの信頼性が低いのではないかと。

②について、テストが公正に行われているかどうか疑問に感じている。毎年平均点を上げることを目標にするよりも、今、何か一番必要かを考えていきたい(毎年子どもたちはわかるのだから毎年点があがっていくのはおかしい。上がったりが下がり下がりするものだと思う)どうか。

学力調査が必ずしも基礎学力の定着に役立っているとは思えない。点数をあげることに目がいきすぎではないか。

②についての採点が各学校でされることによって規準があいまいになり、採点者によっても変わるものになっていると思います。一昨年実施の中2国語の文章題で、正答の採点規準に当たらないものを不正解にしたら通過率は0となりましたが、他の地域のデータでは80%近い通過率のところもあり、不信感を抱きました。

■取組み1「基礎学力定着(小・中)」に関する自由意見 (教員)

意見の概要

定着状況調査結果は各校の主体的な授業改善に役立てるためのものであり、他校や他地域との比較に使われるものではない。

結果のみが一人歩きをして各校の取組みの過程を伝えるものになっていない。

①については、現実的な取組みとしての1つであり、重要と思うが、②については、現場の負担も大きく、適正かどうかと思うところもあり、取組みとしてくられると回答しにくい。

活字離れが叫ばれる中、朝読やことばの教育がとりにまわっているが、さらに読解力を培うとりにまわっていく必要を感じる。

高校に入学してくる生徒の学力が年々低下している現状があります。義務教育段階で「読み・書き・計算」の力を身につけさせることが大切だと思います。

基礎学力の定着が不十分である。

ゆとり教育といった方針は撤回すべき。年々高校に入学する生徒が基礎学力が落ちているのを肌で感じます。

講師を招いて校内授業研修はできるようになったが、教師の多忙により改善策がない限り、今以上の研修はむずかしい。

小人数授業や「基礎・基本」調査も大切だが、理解できていない子どもには個別指導が重要だと考えている。しかし、今の学校運営ではその時間が確保できない。

調査などが多く、児童生徒と真に向き合う時間がないことの方が問題である。

どの生徒も授業を分かりたい、勉強したいという望みがあり、それをかなえてやるのが理想と思うが、実態は教師にゆとりがなく、子ども達の中にも本気でなくその授業中に抜けるなど多くに問題が見られる。十分な教師の確保などしてから行うべき。

教職員数や1学級の児童生徒数を現状のままでは、どちらも教職員の負担増になっており、逆にゆとりのない学校教育になっている。教員増は、臨時職員や時間講師を増やしたのではあまり問題解決にはなっていない。それより、40人から30人学級にしていくことの方が必要。「基礎・基本」は毎年対象の鼓動も集団は変わるし、点数に神経質になる管理職や行政の例もありデメリットばかりを感じる。

一定教科のみの対応だけでなく、すべてを30人学級あつかいになると、さらにきめ細かな指導ができると思います。

絶対評価でどの程度をテストの通過率と求めているかを明確にすると、個人指導がより具体的にできると思います。

平均点以下の学校には訪問があり、呼び出しがあったり、ということで、過度な競争意識をあおりがちになっている。

■取組み2「学力向上(高)」に関する自由意見 (教員)

意見の概要

高等学校では、狭い意味での進路ではなくもっと、幅広く展望の持てるものにするべきと思う。

小中連携の取り組みは進んでいるが、中高連携や高校から大学へのステップのあり方が課題であると思う。小中は、知・徳・体のバランスをよくいわれるが、高校は学力ばかりを重視した大学進学ばかりにとらわれているように感じてならない。

高校入学時に、国公立大学への進路を希望している生徒が多数いる。高校での指導に期待するもの大きいと思う。また、自分の学習したい分野を見つける内容も取り入れてほしい。

共通学力テストについては、内容をもっと検討すべきである。非常に採点しにくい所がある。

自分は定時制課程に勤務しているため、全く関係がなく共通学力テストは、迷惑なだけである。予算の点では、こちらには不便を強いられるのにといい、不満だけである。

学力向上の推進力となる学校だけでなくすべての高校に何らかの形で支援していくようにお願いします。

取組みについて高校の格差が大きいと思える。

学校間の格差が顕著になってきました。指導の難しい学校ほど、力量のある教員が必要です。教育力を高めるには、まず教員の力量アップが不可欠だと思います。

40年前の広島の高校生(高校時代の自分)を思い、現在の高校がとりもどさなければならない課題は多い。

広島県全体の高校生の学力が伸び悩んでいることは、小・中の取り組みの反省材料としたい。

「自主・自律的に学習意欲を態度を養う」ことはそっちのけで、目先の国公立の成果だけを求めて詰め込み的に補習や小テストが行われ、管理職自身が部活を軽視している。こういう形だけの学力向上の取組みでは、20年後、30年後の広島県の教育は非常にすさんだものになってしまうのではと危惧する。

高校の独自性を大切にしたい。県教委がいちいち現場に指導することはかえってマイナス。

以前にも増して国公立大学有名私立大学への競争をあおらせ、学力の高い生徒は大学入学が最大の目標(社会が望む人間像とは違うと思うが)そうでない生徒は多くが希望を持っていないような高校教育になっているのではないか。成果が県立高校全体に還元されているようには思えない。大学生が勉強しない、無気力、生活力がない、社会性が身につけていないと言われるのも、そういうところに原因はないのだろうか。

■取組み3「ことばの教育県づくり」に関する自由意見（教員）

意見の概要

ことばの教育がさらに実践していくように努めていく必要があります。

ことばの教育県づくりへの取組みはとても良いと考えている。言語技術の指導方法について研修会へ参加したり、三森ゆりかさんの講演も聞いた。校内で全体研修の時間をとり言語技術の指導方法を勉強し、児童の発表に応じて体系的に取組んでいくことばの力がつくと考えている。

サタケメモリアルホールでの模擬授業など、具体的な取り組み方がよくわかる。

児童のコミュニケーション能力向上のためにことばの教育の言語技術の指導はとても有効であると考えている。具体的な指導法が示されていることにより、どの教員もすぐに実践できその効果も目に見えてあらわれてくると思う。今後、言語技術指導に対して全教職員が共通理解し、日々の実践に生かしていくためにも、年間研修計画の中にこの研修を位置付け、教職員自身が言語を大切にす姿勢を培いたい。

ことばについて考える100人委員会の方などの話を聞く機会が多くあり、自分自身や教育現場の教職員には、大変良い研修であった。家庭や社会での言葉の質を高めるために今以上に広く講演活動等を展開していただきたい。

高校、大学入試にも小論文が取り入れられている。小・中学校の時から学習活動の中に取り入れ、論理的な思考力コミュニケーション能力を身につけることは重要だと思う。

ことばの教育については、大変大事なことで考えます。ことばの能力を育て、いいことばの使い手を育てることを学校全体で意識して取組むようになっていますが、実際には国語科への負担が何かと増え、しんどさも感じます。

「ことば」を日常の会話としてまず使えるようになってほしい気持ち強い。家での会話、友達との会話、大人との会話等が満足にできていないことを痛感している。

文章の要旨をつかむこと、まとめて自分の意見を述べることの育成に、日々様々な場面で取り組むことが大切だと考えています。

コミュニケーション能力の基礎となることばについては、日ごろから危機感を感じている。指定校ではなく取組み3の普及の実感がない。

パイロット校の取組みから、全県にどのように普及させるかが課題。本校もH18年度の重点指導項目として、「聞く・話す・書く」に力を入れる。

パイロット校の研究も必要だが、各学校、各教科でもっとできる事はないのだろうか。

パイロット校の実践研究をもっと広く他の学校にも知らせる必要がある。

パイロット校の研究会へ参加しましたが、学校によっては特設の授業時間が設定してありました。掃除時間や休み時間を充てている実態もあり、児童も先生もかなりオーバーワークなのではないかと思いました。時間的ゆとりもない中で「ことばの教育」をつめこんでいるような感じがして、果たしてこれでいいのだろうかと思いました。

「ことばの教育」パイロット校、「100人委員会」の広報が徹底されていない。

パイロット校、パイロット教員を招いて研修している学校と研修していない学校の差が大きい。

パイロット校での普及型研究会へ参加し、研修を深めているが、十分研修できているとはいえない。

研究発表を見せただけでも、発表のための教師の仕事の多忙化が大変懸念される。児童が生き生きのびのびと活動し力をつけているとイメージしにくい状況である。発表するために失うことも多いのではないかと（教職員の自由で個人的な活動、きめ細かな児童への対応、教職員の心身の健康）技術論に偏っていないか。

特別にプログラムを組んだりしながら、いろいろ取組んでいるが、大切なのは、普段から学校の中で教師自身がきちんと正しい適切な日本語を使うことだが、全くできていない。国語の教師をはじめ、多数の教師が実践していないのに、ことばの教育ができるはずがない。

基礎基本を示すだけでよい。上からの押し付け的研究は教員の連帯を奪うだけ。

言葉を使って周りの人と豊かにコミュニケーションを取れる力は、社会の中で生活していく上で大変重要だと考えています。しかし、ただ技術のみを追求していくのではなく、相手を理解し、相手に合わせた伝え方や心が通じ合う伝え方も技術と共に指導していくことが大切と考えています。

「ことばの教育」を実践するにあたって「言語技術」の指導を通して取り組んでいるが、いかに各教科と関連させていくかが今後の課題である。

子どもたちの「ことばで表現する力」はどんどん低下しているような気がする。失われているのはコミュニケーション能力や自分自身を自信を持って表現できる自尊心の問題であって教育行政が今とくんでいることばの教育はちょっと違うと感じる。

「ことば」の力は大切であり、子どもたちにコミュニケーション能力を向上させることは、緊急の課題であると思います。しかし、今年度は「ことばの教育」が「言語技術」にかたよった傾向があり、もう少し他の方面の活動も必要ではないかと思えます。

取組みが明確ではない。何をやっていいのかわからない。

情報伝達の手段が多様化する一方で確実に表現力が低下している感じがします。とりわけ、言葉の使い方や語彙力がありません。国語の時間を義務教育で増加させることが必要だと思います。

ことばの能力を伸ばすことは大変重要だが、小・中学校で授業時間を十分とり、指導するほうが必要と思われる。感動体験ジュニア・レポーターの認定証のナンバーは、番号を振り分けられなくすか、どちらかにしてほしい。

言語技術は確かに必要だとは思いますが、技術だけにとわれてしまうとコミュニケーションをもっと楽しさを味わえなくなると思う。「話したい」という意欲をもたせることとのバランスが必要だと思う。

■取組み4「実践的な職業教育」に関する自由意見（教員）

意見の概要

今までも取組んできていることですが、将来に対して夢や希望、志をもたせるような組織的・系統的な指導は必要だと思います。職場体験や就業体験に目が行きがちですが、価値観の育成と両輪で取組むことを大切にしていきたいです。

日常的に進めている教育活動がキャリア教育とどのようにつながっているのかを明らかにし、修正、改善しながら勤労観・職業観を身につけていかなければならない。接遇、感謝の心も大事にしていきたい。

小学校でも、将来の職業人としての資質や態度の基礎を培うという使命感を持って日々の実践にあたっている。

今年度文科省指定のキャリア・スタート・ウィークに取り組んだが、これまでの出口指導だけでなく、全教科・領域でキャリア教育を行うことの重要性が十分認識でき、成果も上がっている。

先進校の取組みが、現場では参考になる。無理のない実践を作っていけたらと思う。

職業・仕事感について、体験し、学習して欲しいし、社会人としても認められる。

発達段階に応じた取組みの内容を模索しています。

インターンシップの充実を希望します(夏休み等を利用し、長期間でお客さんに終わらず、その間はジョブとして働く姿勢です)。

教職員が地域や企業と連携をとり、計画したり工夫したりすることが十分できる環境づくりができていないのか。物的金銭的・時間的環境づくりがなく、職場体験やインターンシップは有意義なものにならないと思う。

本年度ははじめ15日間連続の職場体験を実施したが、事前・事後指導の大切さを痛感しました。三年間のキャリア教育のカリキュラムづくりを来年度の課題としたい。

福山市も来年度よりキャリアウィークを実施しますが、受入れ側の企業の体制はどうか、行政が中心になってやるべきと思いますが、今の様子だと受け入れ企業を中学校が探すようなので、どうかと思います。

キャリア教育への取組みも活発化し、成果もあがっていると思う。問題は、小・中・高と職業体験をさせるとき、受入れ先の確保と、体験の中味をどうするか。

職場体験での受入れ先の開拓につきこむ労力について何とかならないかと思えます。

協力企業の本音が聞かれない。小・中における5日間のキャリア教育には賛同できない。

キャリア教育は大切だと思うが、職場にも負担をかけることなので、各校が独自に動くのではなく、時期と職種希望を各校から吸い上げて教育委員会が振り分け事業初歩了承を得て、各校に連絡するほうがよい。今のままでは近隣の学校が五月雨式に申し込んで、職場に大きな負担をかけることになる。

職業に対する意識を持つことは必要である。しかし学校や地域の実情を考えずに何年生でこれをしなさいでは難しい。こういうことを支援して欲しい。

即戦力を望む職場が多い今、ある程度は必要だが、それを学校がやるべき課題が多いのに、そこまでやる必要があるのか疑問。

学校教育活動全体で指導をするための実践事例集などの発刊を通して教職員により具体的なイメージをもたせたい。すべての教職員がしっかりした意識をもつことが最重要課題である。

事業所との連携にはとても時間がかかるし、職場体験も1日ではお客さんの扱いしかできない。実際に行うには、中途半端さが残る。高校ではアルバイトを奨励し、単位化するという、奇抜なアイデアも良いかも知れない。

学校の中で職業教育への取組みについて、進路部を中心に行っているが、どの教員も職業教育への意識を持って授業を行う必要性を感じている。

もっと小さな年齢から労働すること、人の役に立つことを日常的に体験することが大切な基礎となっていくのではないかと思う。

重点校などいらない。一人一人の個性の尊重だけでよい。企業に人をあわせるのを第一としてはいけない。

ニートやフリーターを問題視し過ぎていないか。フリーターの中には自分の夢に向っている人も多い。

■取組み5「障害児教育充実」に関する自由意見（教員）

意見の概要

児童一人一人の障害の状態に応じた特別支援教育を推進するには、教職員の育成や配置が必要であると思います。

学校現場では、教育的ニーズは非常に高い。早急に特別支援教育に対応できる教諭を育成する必要がある。

普通学級に在る発達障害と思われる生徒への指導については、更なる研修を進める必要がある。小学校の早い時点で一人一人に応じた支援がなされるべきである。

「特別支援」の重要性は理解できるが、そのための具体的手立てが、現状の教員数のままで行われるとなると、とても負担が大きくなると思われる。

特別支援教育のコーディネーターについて求められる能力は深く、広いものです。この役をこなせる者はなかなかいないのが現実ではないか。

特別支援教育として、今まで目が向けられなかった子どもたちに目が行くことは良かったと思います。しかし、専門の教員が不足しており、早急に加配等で対応していただきたいと思います。

通常学級における障害(軽度の知的障害を含めて)児へのきめ細かな指導ができるように、学校や学級、児童の実情に応じて運用できる加配(非常勤講師を含めて)の措置があればと思う。

保護者の声をしっかり受け止めていけるような施策を。

・障害児教育で校内、保護者との連携が少な過ぎる。県の指導なのでしょうか。

障害のある生徒一人一人のニーズに応じてきめ細かな教育の推進は当然のことであるが、中学校での進路指導の在り方に問題がある。適正な進路指導が望まれる。

適正な就学指導にひっかかる。障害児担当していた時に重度の子が入学してきたが、結局、保護者希望優先の就学なのではないか。重度の子を入学させるなら、それなりの人配をして欲しい。佐伯区と他区では、障害児学級そのものとのとらえ方に違いが感じられる。

特別支援教育において支援の必要な児童に十分関われる学校体制にするために、コーディネーターや複数の教職を配置して、きめ細かく指導したりほかの児童への配慮も考えていかなくてはならない。

特別支援教育コーディネーター配置について、現在障害児学級担任が行っているが何校かを担当するコーディネーターを配置していただきたい。

「ひとりひとりの教育的ニーズに応じた」ということはとても大切であるが、今のあまりにも多忙な教育環境でどう進めていくのか、見とおしが持てない。

障害児教育は一人一人の状況が特に異なることや、相談される方の機関の担当者、医師、教諭によってもとらえ方が違い大変難しい。

今後どうなっていくのか先がみえない。差別・選別につながらないことを期待する。

保護者もどうすればいいのかわからないが、障害としては認められない面があり、なかなか学校と保護者が連携した取組みができていないと感じている。(ADHD,アスペルガーの場合)

今の社会障害者に対する見方や就学などに関して現状は厳しい。

学習障害児の把握、取組みについて困難さを感じています。

担当者は、特殊教育教諭免許状の取得や特別支援教育の推進に取り組んでいるが、学校全体が組織的に機能していない。

これらの取組みにより授業の改善がとてめされたと感じております。

アメリカでは随分前より、生徒一人一人の教育プログラムが作られていた。広島県ではようやく始まった観があります。

◎学級編制基準を見直し、学校長の裁量を拡大する方向を考えてほしい。
◎重複判定基準を見直し、児童生徒の実態に合ったものとする。他府県を参考にし、見直しのための委員会等を設置し、特別支援教育に向けて考える必要があると思う。

研究のためのオーダーメイドなど予算の不平等はナンセンス。あまり成果なく、病人を増やしているのが現状。現状をもっと分析して反省してください。

小学校教諭一種の認定講習の申し込みを断念して(申し込みの時期と許可通知の時期を考えて)養護学校教諭の免許法認定講習に申し込みましたが、一分しか許可されず、意欲があるにもかかわらず、時間を有効に使うことができませんでした。申し込み時期を同じにして有効に申し込めるようにして欲しい。

生涯学習、社会学習の中に組み入れて、社会の中での支援計画と合わせて行って欲しい(養護学校を出てからの支援や社会生活に不安を持っている生徒が多いので、そこへの支援が必要)

今年度までは授業改善オーダーメイドプロジェクト事業があったが、来年度からは特別支援教育授業改善推進事業が実施される。それにともないテーマが各学校で決めていたのから、研究テーマが指定されるようになり、実施の希望が難しくなった。

■取組み6「学校における体力向上」に関する自由意見（教員）

意見の概要

学校での日常的な体力づくりの取り組みと食教育が大切と考えています。また、家庭との連携は欠かせないと考えます。

知徳体のバランスのとれた教育実践は大切なことである。特に体については、食育を含め、体力づくりを学校全体、そして地域、保護者を巻き込んだ取り組みにしていかなければならないと思う。

体力は生きていく上で重要だ。しかし、現場はどれもウェイトを置いて取組めない現状がある。地域の力を借りるのも考えていくべきだ。

子どもの体力の低下を感じている。子どもを取り巻く環境がとてつもないと感じている。学校だけでは限界にきている。

体力低下の原因は家庭での仕事をあまり担ってないことや塾通い、遊びの内容の変化等であって、それを学校の中で改善するのは難しいと思う。

結果を上げるための体育では、主旨が達成できない。実態把握の上では大切だが、指導時数の中での体力向上は難しく、結果を上げることはつながらない。

子どもの体力低下を感じています。何よりも外遊びがたっぷりできる時間や環境を整えることの方が先なのではないでしょうか。子どもたちは、学校へ登校すると朝の読書、帯タイム学習、決められた体力づくり、毎日6時間授業とやらなければいけないことが多過ぎます。昼や放課後体を動かして十分遊べる時間を与えてやれない。教師もすることが多く、子どもと一緒に遊んでやれないのが今の学校です。

体育科の授業以外に遊びを通して体力づくりができるような用具・施設の充実を望む。

保体の授業、部活を中心とした体力づくりに努めているが、特に今年度冬季の1、2年生全員のサーキットトレーニングは効果があった。体力テスト結果分析によって目標設定し、継続した指導を行いたい。

体力テストをして、エクセルに記録を打ち込むのはよいが、それが、子ども個人にかえてくるようなシステムが欲しい。自分の得意な能力や適性のあるスポーツなどがわかるようなテストの結果が還元されないと時間の浪費のような気がする。

体力テストについては、小学校(特に低学年)にその方法測定を理解させ、担任一人で体育の他に時間を使って実施するのは無理がある。

全学年を対象に新体力テストを行っているが、低学年では正確に計測できない。正確に計測しようとすればたくさんの補助が必要。

小学校低学年への体力テストの中で、シャトルランは体力的に負担が大きいのでは除外すべきだと思う。

・調査の実施が体力向上に結びついているのか。現場の仕事が増え、負担になっている。国語や算数の研究会に重点がおかれ、体育の得意な教員が自由に研修し、その成果から職場の教員が学び、授業力をアップさせるという状況がなくなった。
・器具の予算を拡大してもらう方が現場はありがたいし、授業力アップがなければ、体力アップも実現しないのでは。

体力テストは必要か。数値を上げることに目が行き過ぎるように思う。休憩時間に目いっぱいからだを動かして遊ぶゆとりが子どもにも教職員にも欲しい。

教育現場でもごまかしができるような調査はやめてください。学校間の競い合いは教員と子どもを疲れさせるだけ。

中学校では体育科の教師、部活教師にまかされていたが、学校全体で取り組むようになったのはいいことです。

体を動かすことによってそれに慣れてくると思う。体が動かせると楽しいという感覚を養うことが大切なので、取り組みをして小・中で行うことは必要だと思う。

体育科教育の集中研修が必要。

・幼稚園の幼児の生活や体力等の状況を把握し、適切な指導の必要があると思います。
・体力づくり推進リーダーが体力づくりや体育授業の改善等を行う推進校制度の充実が必要だと思います。

学校の教員ではなくて、社会教育関係の人で、体育的なものをクラブ的に学校の時間割に組み込むか、午後を使う(一週間に一回とか)等で、遊べることもかねて行うようにしてやる。(小学校、幼稚園等)遊び方も知らない子どもが多い。

「目標50%以上」は、現実全国平均以下です。

筋力よりも柔軟性と精神的な粘りが欠けていると思います。

調査は行われるが、それをもとにした具体的対策や人的増強が図られていないように思える。

「体育学習」が本当に児童生徒に力をつけていると思われない。年々指導力の弱体化が進んでいると感じる。

■取組み7「生徒指導上の諸問題解決」に関する自由意見（教員）

意見の概要

中学校を中心とするスクールカウンセラーの配置は大変よい。小6から中1非常勤講師の配置もよいが運用は弾力的として欲しい。

本校ではスクールカウンセラーを配置していただいておりますが、不登校生徒の対応や地域や保護者から大変期待をされています。現在は、生徒・保護者との信頼関係もあり、カウンセラーの予約が殺到している現状です。ぜひ来年度も宜しくお願いしたい。

相談活動は、担任や学年の教職員等で行っていると指導が中心になりがちである。そして、教師との利害関係があるためなかなか生徒の心情にせまれない。そのため、全校にスクールカウンセラー等の配置が必要と思います。

スクールカウンセラーを各市町に必ず一人は配置していただきたい。本人はもちろん、保護者担任等のバックアップが重要だと思うので、サポートシステムが整備されるといい。

スクールカウンセラーを配置していない学校の不登校生徒への何らかの支援が欲しい。

スクールカウンセラーの配置はよいが、週のうち、もう少し多く学校にいてもらいたい。

- ・不登校生徒の支援の在り方と集団への復帰の難しさが浮き彫りになりカウンセラーとの協力体制によって解決に近づいていきたい。
- ・第三機関の居場所が近くに欲しい。

中学校の実情が小学校より厳しいものがあると思うが、小学校にもスクールカウンセラーがいるとよいと考えている。臨床心理士等の専門家がいたら、担任も連携をとりながら子どもと関わっていくことができるし、担任自身のサポートもできるので、設置して欲しいと思っている。

中学校のスクールカウンセラーは大いに活用しているが、小学校の相談員配置を望む。

中学校のスクールカウンセラーのように、小学校にも相談員などを配置して取組めるようにお願いしたい。

小中学校をかねたスクールカウンセラーを配置して継続した相談や指導ができるようにすることが必要です。

スクールカウンセラーと教師の立場や考え方が違うため、生徒にとって学校の中に2つの価値観が存在することにならないのか。学校では許されないことが、スクールカウンセラー室では許されていることもあり、しっかりこない部分がある。

配置されるスクールカウンセラーの質的向上が急務。

背景が複雑であり、急進的な施策はなじまないのを感じる。調査や書類作成に時間がかかっている。(必要性は感じるが)

中学校での対策・施策では遅くて、手遅れである。小学校低学年時を重点的に中学校の実態をよく知る教員が、小学校の教員として赴任し、保護者の指導にあたる体制はできないだろうか。小学校保護者に、その子の将来像をイメージさせて、そうならないために学校とともに取り組める環境づくりが必要だと思われる。中学校においては、フリーに動ける生徒指導担当教員がいないと、教員が疲弊し、つぶれてしまう。

不登校対策では、相談員や非常勤講師を配置しても、その子どもを一番よく理解している担任に負担がかかってくる。

不登校生徒へのかかわりは教員には徒労感が強い。理由は結果を求められるため。家庭への取組みには限度がある。

自分のクラスの保護者が不登校傾向の相談で、中学校のスクールカウンセラーに会いに行ったが、1度行ったきりで続けてというは無理があったのかと思う。児童相談所も予約でいっぱいだという話も聞いたし、結局は、担任や学校が背負っていくものかと感じる。

急増する不登校に対して、現場では圧倒的に人が足りないし、生徒の居場所も足りない。

実態を把握する主旨は大切だが、一人一人の人的配置による報告等、多忙の上積みになっている。

問題があると思う子どもがいても、校内ではそれを取り上げられるけれど、そこから何の手も打ってもらえてない。担任と家庭が話し合っているに過ぎないのが現状である。何らかのサポートをどの学校にも(行き渡って)してほしい。

各家庭の養育力・教育力の育成・保持・強化が第一。それを社会がサポートする体制を。

本校では、不登校の未然防止、早期対応に努め、不登校生徒は現在いない状況である。学校と保護者が連携し、生徒のサインも見逃さないようきめ細かな指導や体制づくりが求められている。

県の取組みとしては、とてもよいと思いますが、実際に不登校の生徒に対する取組みは難しいと感じました。一人ひとり違うことや家庭の状況などいろいろ問題がからんでどうしたらよいのからないのが実情だと思います。

広島県の取組みは、自慢してもよいと思っています。

各担任の学級経営力を向上させることが最も重要で、専門家や担当者に任せるといいう方法では、本当の意味での問題解決ではない。非常勤講師など、十分な打ち合わせや会議がしにくい立場の人を増やすべきではない。

学校に非常勤講師はやめて、正教員を増やしてください。不安定雇用は見通しと団結が持たにくい。

■取組み7「生徒指導上の諸問題解決」に関する自由意見（教員）

意見の概要

小6での非常勤講師等の措置により、より多くの学校へ学力面、生活面での支援ができるように。担任1人でなく複数での指導ができるように。

不登校について、始まった頃、熱心に取り組んでいたが、途中無理して登校させない、待つなどの県教委の指導であたかも私達の取組みが悪かったような印象をつけられた期間があって、その間に不登校が増え、また、最近方向転換したような気がする。保護者専門機関との連携も今のような教師へのまったくのゆとりがなければ不可能。

なぜ、問題行動、不登校の子どもが出てくるのか、防止のための学校づくりが大切なのでは？

子どもの指導よりもむしろ保護者への指導の方が重要になっていると感じます。地域の教育力を高め、保護者の意識を高める必要があります。

学校全体としての取り組みが足りない。

高校において相談体制は充実していない。

二一トが増える現状を打開しなければならない。

■取組み8「豊かな心を育む教育」に関する自由意見（教員）

意見の概要

児童が自己肯定感や目的意識がもてるような、いろいろな取組みが必要だし、保護者も我が子がこんな子になって欲しい、親子でいっしょに取組む中で会話を増やし、子どもの将来の見本、手本だという気持ちをもつようになって欲しい。

保護者に対する取組みも必要。

家庭での指導力、教育力が大切です。保護者の意識向上が必要。

道徳性を身につけることは、未来にとって重要な教育だと考える。特に低学年のうちに道徳性のある程度備えてないと中高学年ではとりもどせない面もある。そこで、低学年の道徳時間の見直しが必要だと考えている。

道徳の時間を増やせば、心が豊かになるのであれば、本当に幸せである。道徳、実際に接したり、話して聞かせてもらったり、本当に豊かな人と接することも大切と思う。

道徳の時間がより魅力的になるよう、地域の人材活用等を積極的に推進することが大切である。

規範意識の低下を強く感じている。当然ながら道徳教育の充実も大切であるが、自然体験、社会体験などの体験活動を通して、人間性や社会性を育てていきたい。

豊かな心を育むのは道徳の時間の指導の充実とは違うと考える。

道徳教育を徹底することで、豊かな心の育成、自己肯定感を養うことができるとは思えない事例が日常的にいろいろある。

本年度、道徳の指定校であった。大変ではあったが、勉強にはなった。本気で道徳教育に力を入れていけば、もっと広げていくべき。だが、道徳の時間だけで道徳性は身につけていけない。地域や保護者も引き込んで変えていかなければならないものではないかと思う。

児童・生徒の心を育む道徳教育はとても大切だと考えています。実践校での取組みから学ぶことも多くありました。道徳授業が文の読み取りにならないよう、心を動かし、行動が変わるよう、継続した評価をしていこう話し合っています。

近くに道徳の実践校がありますが、そのためには、学力をつけることや他の教科の教材研究がおろそかになっているようです。何が一番優先して実践すべきか、十分検討する必要があると思います。

周辺校として、道徳への取組みに熱が入ってきた。

道徳性や豊かな心を育むことは授業で教えるだけで身につくものではないと思うから。授業より普段の生活態度から目を配り、声かけをしていくこと、良書を紹介してやるのが大切。

道徳は人間の横のつながり、心情にたち訴えるような、後は自分で考えさせるようなあいまいな教材の投げかけで、道徳性は養われない。正義感、正しいことは正しいと明確な指導ができなくて道徳性は養えないのでは。

歴史や科学をきちんと教えて自分で考え、未来を切り開く知恵を育てることが大切。

尾道市教育委員会の取組みに学びたい。

道徳に対する意識が5年前の生徒とはかわってきています。以前はそれってどうとくだねーと少しふざけて言っている様子が見られた時もあったが、今は指導者も道徳に対する指導意識がかわり大切なこととして、扱われていて効果ができていると思う

成果が実感できない。

目的はよくわかるが、取組みによる成果目標がよくわからない。

趣旨は良いが、生徒の方には浸透していない。

- ・毎日毎時間が道徳教育
- ・自律心を養いたい。

日常化が望まれる。

不安定な社会、規範意識が欠如した社会では希望が持てない。社会教育が不十分。

「多様な体験活動を通して」豊かな心を育みたい。本校に転勤してきた職員が体験活動が多いことに驚く。

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見（教員）

意見の概要

自己申告書で目標管理することで、組織として学校教育目標に向けて一体となって進んでいける。

自己申告による目標管理は、これまでの教職員の意識変革につながったと思う。全ての項目で数値化のみでの判断はむずかしいが、客観的データによる評価は一つの成果と課題になり、今後の目標となる。

研修に参加できる教職員が少ない。人事評価制度は大変評価できる。教職員の意識が変化している。

教科間のバランス、年齢構成等、アンバランスな状態が続いている。また、指導力に課題のある教員も多い。研修の方法、手当て等総合的に人事管理を見直す必要があると思う。

- ・研究主任、教務主任等の計画的な育成、例えば学校の小規模中規模、大規模での同じ主任等の経験など人事面でも考慮することが必要。
- ・小規模校では、人員の関係で研修が十分に受けさせられない状況があるので、又指導の充実からも定数を検討いただきたい

校長を中心に学校が組織的に運営されるには、全体のベクトルがそろい、太いベクトルになっていかなければいけない。人事の管理が適正に実施されて初めてそれが可能になると考えます。今後ともよろしくをお願いします。

指導力向上、人事管理の適正化を図ることだが、一丸となって、それぞれが研修していくような体制にはなっていない。職員会もなく一部の代表者だけで話あって全体にうまく内容が伝わらなければ、教師の本当の意味での結束力や養えるはずがない。教師は人を育てる職業で、企業とは異なるのにまるで企業化するような取組みでは、目的は達成されないのでは。

指導力向上は不可欠だが、主体的な研修こそ指導力向上につながると思う。人事評価は管理職の主観により評価されるのではないかと心配。教職員間の競争、もしくは無気力につながりはしないか。

施策の方向性は正しいと思うが、現場の事務処理量を大幅に超えており、仕事が人に偏る組織の在り方から解決しない限り有効に機能しないと考える。

センター研修が充実している。サテライト講座がとても参考になった。反面、現場では多忙化している状況がある。

- ・本年度11年次研修に当たったが大変であった。確かに勉強になるが、日数の多さとレポートの多さは軽減できないだろうか。
- ・人事評価制度は、教員間の競争を生むのではないか。教員間がうまくいかなくなると、それがこどもに影響してしまうと、今までの経験から感じる。

理論的には理解できるが、それに伴う人的保障が図れない中では、現場の負担感が大きい。

・研修で召集されることが多くなると、自習時間も増え、ただでさえ多忙な中、現場での職務の遂行に支障をきたすこともある。意識の向上などは各学校で管理職の指導のもとでも図ることができると思うので、召集するのは最小限にして欲しい。

ゆとり教育のうたい文句の中で、教員は以前の状況から大変多忙な現状におかれているのが実情です。教員にゆとりがあってはじめて生きてくる制度と思いません。

教職員の資質・指導力の向上は緊急の課題であると思います。しかし、どこの職場も教員の人数が不足しており、ゆとり子どもについて語り合ったり、自己研修をする時間ありません。まず教員の数を増やすことを優先してください。

教師の指導力の中で、技術面の研修は進んできているが、特に若い教師に生徒に対する愛情、教育に対する情熱等、熱い思いを十分持たない教師の育成が課題である。

教科的な面では、全体的に指導力は向上していると思いますが、今の教師の様子を見ていると生徒と1体1で話ができない。保護者や地域の人の話ができない人が多くなっていると思います。その面の研修をどのようにしていくか考えてみてください。非常に難しいと思いますが。

専門的分野での研修を自主的に頑張っている教職員とそうでない教職員にわかれている。仕事や研修が適正に評価されることで、力量が上がると考える。自主研修ができる場とその研修を広める場をたくさんつくって欲しい。

主任等研修が実際の場に生かされていない。学級経営・子どもへの指導などの基本的な研修をして欲しい。

職場の中で学級経営を学び合える雰囲気なくなっていることに大きな問題がある。研修が指導力向上の成果につながらず、単なる管理強化になっている。管理職の指導力不足が深刻。

教職員の資質を向上させるためには、常日頃から学校の諸問題や状況について考えることが必要であるにもかかわらず、職員会議が討議する場ではなく、連絡会になってしまえば、学校長に相当強い指導力と全職員に常に声をかけ指導し、問題意識を喚起するだけの時間的ゆとりがなければ底上げは難しい。

研修が教職員の希望するものへの参加から管理職が望ましいと考えるものへの参加になると聞いて、研修も自由にならないきゆうくつさを感じます。いろんな面で管理が強くなり、とても生き苦しく、やる気が出にくい状況です。

教職員の中に、色々な人がいて、お互いに生きていることを知ること子どもにとって大切なことかもしれないと思っている。得意なことをお互いに補い合うことも小学校ではできると思う。そのように学校の中を変えることもできるので(小学校しかわかりませんが)指導力向上対策は良いと思う。(チャンスである)

教職員が足のひっぱりあいではなく、校長を中心とし、一丸となって指導にあたるような職員集団であって欲しい。

教職員の資質・指導力向上に一番大切なのは職場での横のつながりや協力態勢である。日々実際に直面している子どもの問題から学ぶことも大きい。しかし、ここ数年職場での横のつながりがむずかしくなり、多忙化も加わってしんどい状況があるのでは。県教委主催の研修への出張も多く、それは成果につながっていないのではと感じる。

若い人も年配の人も楽しく仕事ができるようなものでなければならない。

教育は集団で支えあってこそ実りのあるものになる。児童・生徒と直接触れ合う教員を減じて、パソコンにばかりむかっている教員を増やしているのは、教育の後退。

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見（教員）

意見の概要

人事評価は、より客観的で公正で適正な評価でなくてはならない。そのためには、上司が部下を、部下が上司を評価するとともに、保護者による評価も必要ではなからうか。ただ、人事評価は非常に難しいことなので、慎重に検討していただきたい。

初任者研修が多く、担任がクラスにいないのはどうかと思う。また人事評価制度により、よりよいと思われるものも二の足を踏み、新しい事をする気力がなくなった。

適正な評価が行われるのかどうか疑問である。

人事評価が適切に行われているか不安である。

指導力不足教員の把握は共通の観点で適正に行うのか。

何を持って指導力不足とみるのか不明確。人事評価で数値目標等を上げると成果を出すために子どもにしわよせがいく可能性も大きい。長期にわたってみないと子どもの成長ぶり成果はわからない。

最近の若い教員の実態を見ると知識のみで多様な状況の子供に対応できにくい人が多いように感じる。採用時に優秀な臨時採用教員の積極的な任用を望む。

若い教員の採用を増やすことが学校現場に活力を生む。40歳代が多くては伸びがない。

教職員の指導力向上＝児童の学力とも考えられる。低学年でしっかり気づいたことを話せる児童を育成しておかなければ高学年になって発表しにくくなる。高学年の授業は児童が発表しなければ、説明が多くなる。

活性に欠け、不適格教員の採用条件の見直しを強く求めます。

一人一人の教職員の意識改革が必要。

何かあると指導力不足教員という言葉がいろいろな場で管理職から聞くことがある。

■取組み10「学校教育改革推進」に関する自由意見（教員）

意見の概要

県民、保護者、教職員の意見(考え)を把握することは大切である。今求められている教育のあり方を考えていくのも教職員の使命だと思う。

子どもたちの保護者に教育の満足度を確かめることは有意義だと思う。私達教師は保護者にかわって教育を行っているのだと考えている。

県民の意識実態等アンケート調査の結果を学校経営等に生かすことができるのでよい。

学校経営体制の整備、充実の施策の成果やモニター制度によるニーズの反映などの具体的なものを提示いただければよいと思います。

民間の意見を聞くことは大切であり、学校改革につながる面がある。しかし、学校の特異性がある(学習指導ばかりでなく生活、生徒指導、公務など)見えない面の評価や評価者の問題点がある。

このようなアンケート調査をより多くの教職員対象に行い、職場の生の声をもっと聞いてください。

現場の声をもっと吸い上げて、生かしていただきたいと思います。

形式だけのような気がして中身がない。

施策と予算に満足できかねる。もっと強化を望みます。

地域の学校へのニーズを大切に、学校の教育目標に織り込んでいく必要がある。取組みがどの程度深化しているか把握しにくい。

子どもたちの現実が伝わっていないのでは。

管理職任用制度(自己申告制度)の長所はよく分かるが、能力適性についてもあるので、上司の推薦も必要と思える。モニター制度は大いに参考になる。

先日、エキスパート教員の公開授業を見せていただき、とても刺激をうけました。優れた指導力を生かして全体に広めていって欲しいです。県民保護者の声が聞けて教育に生かせるのはとても大切だと思います。

主幹制度は第3の管理職として学校経営方針、人材育成計画を進めるうえで大変重要である。加配としての配置、管理職手当等々の充実を望む。

教職員が丸丸となって意欲的に教育活動に取り組むためには、リーダーである管理職の人格や指導力が重大である。その資質や能力をしっかりと見極め、管理職に任用して欲しい。

良く分からないが、管理職の任用が推薦から立候補になるということであれば、誰でもなれるということになり、人間性など心配な点がある。

教職員は実際には子どもと対しているのですから、教職員が自主的・自律的に豊かに子どもたちと接するようになる職場作りを目指してほしいです。すばらしいものとか出来ても、疲れた教職員になってはだめだと思う。

自己申告制度で気力がなくなった。保護者等の声を受けとめることは大切だが、そのたびに右往左往せず、学校として、一貫性のある中で、聞いていくとよい。

校長を補佐をする意義がわからない。管理強化なのか？自主的・自律的ということが補償されるためには、何が必要なのかも真の意味で考えていただきたい。教職員は向上心や誠意を持っているので、自主的に活動できる環境整備をしていただきたい。アンケートが有効に活動できるのかも疑問に感じる。

職能に対する評価をもう少し明確にし、励みになるシステムにして欲しい。

指導力のある者が管理職になるというより、権威や権力をむやみに振り回す小役人的管理職が増えてきていると感ずるのはうがった見方かもしれませんが、教育改革推進のねらいとは逆方向に感じています。

優れた指導力を位置付けるとそうでない人を認定することにつながる。同じ職場で競いあうのはとつてもさびしい。教育は支え合って、そして長い期間の成果として結果は出る。

学校の自律とは学校が犯罪行為等を主体的に行わないように自浄能力を持つということか。自律的でない教育問題への取組みの例があれば、もっと分かり易いのだが。

ニュースレターの中に書かれている内容のどれもが大変参考になりました。

■取組み11「開かれた学校づくり」に関する自由意見（教員）

意見の概要

保護者や地域の方が学校に良く来られているのは良いと思う。今の子どもの様子を見られ、学校と一緒に子どもを良くするように協力していただけると良いと思う。学校だけで子どもを良くすることが出来ると思わない方が良い。

今こそ「学校はふるさと」と感じさせる取組みが必要。地域住民とともにある学校づくりをめざしたい。

保護者地域の方が来校しやすい学校の雰囲気づくり、教職員の顧客満足の意識向上が重要だと思う。

大変参考になります。保護者も感心を持っておられる。

本校においても保護者や地域の方へもっと学校の取組みを情報提供する必要があると考えている。

各学校の情報を知るためには、公開やホームページでの提供が情報源になります。開かれた学校づくりには、重要だと思います。

各学校のHPを見るが、毎月、更新しているところとそうでないところ、また内容にもばらつきが見られる。

今年度は月2回程度の学校だよりを発行し、学校の透明性の確保に努めてきたが、各学校のHPの作成、更新についてより工夫が必要である。県教委の広報誌等は情報提供に大いに役立っている。

学校だよりやHPで情報を発信しているが、なかなか広がらない。

学校評議員によって、学校が常に見られているという意識が高まり教育にとって有効だと考える。

評価の方法についてよりよい方法はないものか。

学校批判が目立つ様ですが、好意的な評価も公開したい。

学校評議員、外部評価も、その時目にした事をとらえられるので仕方ないが、誤解も多いように思う。また年配の方が多く、昔を基準にされて難しい。外部の方に目につくことへの管理職の指導が多くなる。本当に大切なところではないところに気を取られて本来の学力向上のための授業がしにくく困っている。

学校運営に参加してもらうのはわかるが、保護者や地域の人々の意識がどのようなものが大切。例えば、学校運営全般の見地から意見を述べるとかして欲しい。

評価されたり、公開することの良さもあるが、本当の意味での評価ととらえる価値があるのでしょうか。質の高い評価なら納得できる。

評価してそれを公表する必要がどれほどあるのか疑問に思う。評価のために競わせたりすることがエスカレートし、不正が行われたりもすることにつながる。迷いがあるからいろいろな改善取組みをするのは分子が極端な方向へ走らない懸命さが必要ではないか。学校教育がすべてではない。親が変わらなければ、子どもは変わらない、育たない。今の時代保護者を育てる方のプログラムが必要。

学校評価のための取組みと生徒の課題がかけはなれているため、教員にとっては、負担が大きく感じる。

県教委はいろんな取組みを急ぎ過ぎでいませんか。外からの評価も気にするなど教員は寝てても眠ってない人が増えています。もっと信頼してください。

地域や保護者に積極的に情報を提供することは大切であると思う。しかし、学校管理の安全面や生徒・教職員の個人情報の保護などの問題が課題としてあげられるので、慎重に取り組んでいく必要があると思う。

開かれた学校と言いつつ、児童生徒の安全を第一に考えない施策により命を失いかねない状況がある。また、安全管理を学校職員に任せられた状態でのいいのだろうか。警備員の配置なども必要ではないのか。

各校の独自性を活かす寛大さが必要であろう。

日常の中で実施すべきことで、期間を設けていかにもやってみたい事柄ではない。形ばかり追うことをせず、それぞれの学校の主体性に任せて実のある内容を積みあげるべきだと思う。

教育委員会の広報誌で、我々教職員も知らないような情報が保護者先行で伝えられるのは、保護者に聞かれても答えられないので困っている。

形式だけのよう気がする。

県民総参加できる事業の前に「ひろしま教育の日」の認知が288万県民のせめて50%、150万人程度までいかないといけないのでは。80%あれば申し分ないが、11月1日と答えられる人が何%いるのか。制定5年の今年、行政の真価が問われるものと思われる。

■取組み12「県立学校の施設設備整備」に関する自由意見（教員）

意見の概要

施設の整備にあまり時間もかかりすぎる(5年間、これは要望してから実現するまでに要する時間です)。

老朽校舎の改築、校舎等のリフレッシュなど財政が大変厳しい折ですが、早急をお願いしたい。アスベスト問題で予定がくるってることと思いますが、ぜひとも次年度こそはと思っている小中高は多いです。

各校の独自性を大切にすること、県としての長期、中期、短期のビジョンを明確にし、広く県民に分かるようにすることが大切だと思う。

今年の冬は寒かったですね。三次地区の方では灯油代が足りずに、教員が自宅から灯油を持って行って教室を暖めたそうですね。私の勤務する学校では、パソコンはあってもカラーコピーなど自宅でやっています。まず基礎的な消耗品の予算を。研究のまとめ、卒業式の準備と眠る時間を減じて日々すごしています。アンケート資料も手元にくるのに1週間はかかっています。どうしても期日までには書けませんでした。現場の多忙さを解消してください。

■ 取組み1「基礎学力定着(小・中)」に関する自由意見(企業)

意見の概要

基礎学力の向上・定着化には少人数授業は不可欠だと思う。

非常に重要なことだと思います。少人数制をさらに進めるべきだと思います。

少人数授業は、生徒と先生のコミュニケーションをはかるうえで必要不可欠である。

非常勤講師を増やしきめ細かい指導、能力に合った指導をして頂きたい。

「読み・書き・計算」を重点においた指導は賛成だが、少人数授業についての効果はあまりないと思う。

確かな学力を身に付けさせるためになぜ少人数がいいのか、少人数になる前と後で学力はどうなったのか私には判りませんが定着状況の誤答率を見るとじっくり考える必要のある項目の誤答率が高いように思います。私は高校卒業まで50人以下のクラスは経験しておりませんが全員が集中していたように思います。そういった意味でなぜ少人数なのか疑問です

少人数学級にこしたことはないが、果たして予算等を考えて実現出来るような事かどうかを考えなければならない。すぐ出来ることから始める事が大事。

1学級の人員は、30人までで、常勤の教諭が担当される方式が望ましいと思います。

読書とその感想文作成などで基礎文章力を補ってもらいたい。

「読み・書き・計算」は徹底的に行うべき。特にパソコンの使用は全く意味がない。手書き、手計算で行うべきである。

・パソコンの普及により、漢字の読み書き、さらには読解力が低下しつつある。読み書きのテスト(理解度チェック)など、興味をもてるような指導(工夫)を進めてほしい。
・手紙・作文など書く機会をたくさん取り入れたらどうですか?

パソコン・携帯が普及している今の時代だからこそ、しっかりと『読み・書き・計算』は非常に必要だと感じる。
この部分がおろそかで他の部分を鍛えても、効果は薄いのでは?

取組みのとおりだと思います。ゲームやパソコンですぐに答えが出ることに慣れた子供たちに危機感を感じます。
もっともっと「本」を読んで欲しいものです。

「読み」についてはTV時代で困難と思いますが、読書量を増やすこと「書き」については反復練習、「計算」については筆算・暗算力を養うことが重要と考えます。

文章を書くときに、基本的な論理構成ができるような技法の訓練をしてください。読み手の気持ちになり、効果的に内容を伝えられるような訓練をしてください。四字熟語や漢字の書き順を知っていてもビジネスでは殆ど役に立ちません。

正しい言葉遣いや簡単な計算を苦手とする人が若年層に多く感じられ、基本的な事項である「読み・書き・計算」に関する徹底した教育は非常に重要と考えます。
今後も、徹底して行ってほしい。

良いことだと思います。結果が出ていることに対してはどんどん取り入れていく方が良いです。

良いことだと思います。
企業としては、これにあいさつ、礼儀などを加えていただきたい。

基礎学力は、大事なので、積極的に、進めてほしい。

全ての基本なので、いろいろな教育技法を開発し、底上げを図るべき。

基礎学力の定着は、各人の将来の人格形成上極めて大切である

基礎学力定着についての取組は今後も重要と考えます。

特に小学生の基礎学力定着に注力されることについては、賛成いたします。
この段階でつまみずいた生徒をそのまましておくのは、生徒にとっても指導する側にとっても、大変な労力が必要となってくるものと考えます。きめ細かな指導とフォローを希望いたします。

この取組には賛成です。結果の評価、検証がとても重要と思います。

基礎学力の向上は、重要なことだと感じています。世界的な日本の学力低下にならないように、重点的に実践していただきたいと思います。
そのことに日本の将来が掛かっていると思います。

小、中学の教育は大変重要だと考えます。特に広島県東部については、その様に感じております。

各学校毎に、授業以外の短い空時間等を使い、100マス計算、チャレンジタイム等に取り組み成果がでているようです。

■取組み1「基礎学力定着(小・中)」に関する自由意見(企業)

意見の概要

この時期に、徹底的に詰め込むべきと感じています。厳しく鍛えていただきたい。

増やすなど、徹底して実施して欲しい。

理解が出来ている子と出来ていない子の差が激しい。差が激しいと、同じ教室で授業を進めていく事には限界がある。全体的に昔に比べ基礎学力の低下が著しい。

基礎学力の向上はとても大切なことだと思います。特に計算力の低下が著しく感じられますので、さらに力を入れていただきたいです。(高卒でさえも、小学の計算が出来ない子を見かけます)

ここ数年来、学力優先で卒業後就職した人は昔と比べてかなりの確立で就業能力が低いと感じられる。例を挙げていえば、高校ではかなり優秀な成績を修めていた子供が学校推薦で製造業に就職したが、普段から学力の勉強しかしていないからか、ほとんどやる気が無い。

責任を持って基本を教えてください。基本が揺らいでいるように感じます。

語学が弱い。国語(日本語)の能力が、非常に低下していると感じる。

漢字の読み、書きが不十分なので重点を置いて教育する必要があると思われる。

加減乗除の計算のエクササイズ方法は従来より向上しているが、計算前のある程度の桁数を予測するとか、面積の場合でもこれより小さくあれより大きいといった、概念的に数や量を捕らえることが下手なような気がする。これはゲームや計算機から安易(一直線)に答に到達するというこの、裏腹では？

基本的な文章を書く能力、自分の意見を表現する能力が不足していると感じることがある。

基礎学力の低下は目を覆うばかりである。出来る子にはさらに上を目指す教育を、理解が難しい子にはそのレベルに合わせて納得して分かる工夫がある教育を進めることが必要と考えます。

文書の読解力を身につける工夫がいま一つと子どもの勉強をみながら感じる。

基礎学力は低下していると感じています。何事も基礎が大切なので、特に小学校低学年からの取り組みを充実して欲しいと思います。

基礎学力は低下していると思います。

児童の学力の個人差が大きくなっていく傾向にあるのではないのでしょうか？

活字離れがひどい、読み書きの基本ができていない子供が多いように思います。

いわゆる「ゆとり教育」世代については導入前後と比較しかなり学力格差が生じていると聞きます。

現代の日本があるのは、ベーシックな部分に教育(基礎学力定着)があったからだと言われますが「基礎学力の定着」のみならず、「基礎学力の向上」に向けた取り組みも喫緊の課題であるように感じます。

教師一人当たりの児童生徒を減らす事よりもむしろ教師の教え方(知識だけでなく人生観も)のレベル向上の方が効果的と考えます。団塊の世代は1クラス50名程度であったので人数が多だけ個性もいろいろあった。実社会で役に立つ知識や応用力は教師から教わったものだけではなくクラスメイトから教わったものも多い。

学校での取り組みも大事だが、本来、家庭で取り組むべきこと。両親への協力要請が不可欠。

学級崩壊したクラスなどでは、教える側の教師にユトリが無く、焦りもあるせいか「教えた。教えなかった。」などのトラブルが多いと聞く。安定した学級運営が優先と感じる。

基礎的な読み・書き・計算は必要であるがそれ以上の均質化は不要

取り組みはよく出来ていると思います。

成果が子供に反映されているかはわかりません。

県平均より上か下かということだけが話題にのぼっているような気がするので、いったい何のための基礎定着テストなのか？と考えさせられる。

基礎学力も当然大切ですが、勉強する環境がどうかということを感じる。例えば、授業中にフラフラする子がいたり、それを注意できなかったり・・・etc

■取組み2「学力向上(高)」に関する自由意見(企業)

意見の概要

自らの将来について、自主的な意見を持つ生徒を育ててください。学問は楽しいものだと思うよう、指導をお願いします。

大学進学に対して何らかの目的意識を持たせることが大切。
目標が明確な学生は、少ないと思う。
東京に行きたい、などの理由でも良いと思う。

進路選択の適性は、早い段階で、ある程度関心を持つように、指導してもらいたい。

高校生に必要なのは、知的興奮を呼び起こすようなトリガーだと思います。
自主的にできる能力はあるはずですから。

科に応じた特色のある教育をされていると思います。

STUDYとLEARNの違い。教えてもらうのか、学ぶのかの違いがよく理解できるとよいと思う。

大学や学問に興味を持つことは結構だがそれを身に着ける事が将来、自分が着くべき職業に(やりたいこと)に対しどのようにかわってくるか(役に立つか)も示すべき。そしてそのためには何を学ばなければならないか…。

この事を学ぶ事によって得られること、学ばない事によって人生の選択肢が減る事を教える必要あり。
職業に対してどのような知識が必要であるか、その為に何を学ばなければならないかを具体的にする必要あり。
子供にとって最終的に大切なのは学力向上ではなく、生涯働きがいがある『職』を見つけ、それをこなす知識・教養をもつことと思う。
また同時に、他人と共存共栄出来る為の能力を身に付けることが大切では？

自身の進路について、高校生たちがもっと真剣に取り組む環境が必要だと思います。

大切な取組みだと思います。スポーツでも何でもよいので、大学に行く目的をしっかりと持ってもらいたい。

大学へ進学することが目的でなく、その先の就職、更に会社でのプロモーションやポジショニングといったトータルなライフ展望イメージ・ビジョンが持てるような場を以って、生きるということを考えて欲しい。
またイマジネーションの能力の重要性を認識して欲しい。

なぜ大学に進学して学ぶのかという基本的な部分の指導がおろそかになっているような気がします。他の高等学校との学力競争ではなく、自分の夢を実現するためにどの大学の学部でどんな教授の授業を受けたいといったような考えを持てる指導がみつようではないでしょうか。

大学入試だけの学習にならないように望む

積極的に推進すべき取組だと思います。大学教員による模擬授業は、受験の先にある世界を知ることにもなり、学習意欲や生き方を考える場を与えるよい機会になると思います。

また、共通学力テストにより、各教員の自分の仕事の効果測定ができることは、教員自らの質の向上が期待できます。

将来のビジョンが描けるような指導教育を希望します

総合学力も大切ですが、個々の個性的な学力を伸ばすことが、将来の日本に役立つのではないのでしょうか。平均的な能力よりも、特化した能力を伸ばすことが遅れているように感じています。

個性を見つけて伸ばしてゆくことが本来の教育と考えます。個性を自覚させれば、それが学習意欲へとつながってゆくとします。

高校時よりそういった取り組みをされることは重要ですが、進路選択の時までに自分の個性や特性を磨き知るといことを可能にさせる教育が必要ではないでしょうか。

画一的な指導では、生徒の個性が生かせない。

良いことだと思います。結果が出ていることに対してはどんどん取り入れていく方が良いです。

広島県全体の平均学力を上げるため、これからは是非お願いしたい。
学生の学力低下が感じられている現在、思い切った取り組みが必要と考えます。

この方式でよいと思います。

教育全般が、受験の為の学習塾化しているのではなからうか、人間教育という面で、もう少し考えては

学力向上の前にマナー教育を徹底させた方がよい

・現役高校生になってから取組むことも必要ですが、もっと前(小中)の段階で身に付けさせることが是非必要と考えます。

自主的・自立的に学習する意欲と態度を養う事は、高校からでは遅い気がする。興味・関心を持たせる事は良い事だが、生徒側と教育側の興味・関心がうまく一致するのか。学校間のレベルの差が広がるのではないか。

■取組み2「学力向上(高)」に関する自由意見(企業)

意見の概要

自主的学習習慣をつけるのは高校生よりも、義務教育時におこなった方がいいと考える

高校独自の企画が必要ではないでしょうか。高等学校だけの取組みではなく前項でもありますように、小、中の教育方法如何で高等学校の取組みを考える必要があらうかと思えます。

広島県は物づくりと謳っている。高校の方は大学を意識し、物づくりの学科が少なくなっている。企業としては、物づくりの学科を取りたいのだが、高校では要求を満たしてくれない。 勢い大学となる(地元を取りたいのだが、全国ネットと成る)

進学指導の大切さは十分理解できるが、技術立国の日本を支える若者に高校時代に十分な技術教育も必要ではないでしょうか

「進学指導重点校・進学指導拠点校」を増やすなど強化、徹底して欲しい。

地方に埋れる多くの優秀な生徒の確保を考慮し、長距離通学による学習時間のロスと学習意欲の低下を防止するため、一定時間の通学エリア圏を設定して、学校の統合を考慮した、広島県の学力向上の推進力となるモデル地域、モデル校を配置していただきたい。

進学指導拠点校、進学指導重点校において、落ちこぼれに対して救援処置も考えて頂きたい。

各学校の特色としての差というよりも、各公立高校間の格差、公立私学の格差を感じます。公立学校の程度が全体的に落ちてきていると思います。

学力向上対象高はいいでしょう。その他の高校のレベル向上も必要ではないでしょうか。基本的な学習訓練能力が乏しいようです。

学力も大切だが、社会常識が段々世代間によって拡大している感じがある。マンガや一般情報には詳しいが、名作と言われたものはほとんど読まないし知らない。考える力が弱っているような印象を受ける。

大人が良かれと思って沢山の人生の選択肢を用意しすぎた。勉強ができるだけが全てじゃないよということで。その結果、勉強なんか気にしないで良いんだという勘違いをする若者が増えたように思う。最低限の学力の上に選択肢が存在するのだということをわからせて欲しい

学力の基本は知識と応用力だと思います。最近の傾向は知識偏重のように感じます。もっと応用力を磨く教育を望みます。(人は学力だけではダメですが…)

長期休暇などを利用して2週間程度復習を希望者を対象に行っていけば再確認もできるだろうし、つまづいていた点を克服できる良机となる。この学力向上は全体的な底上げなのか、できる子を更にアップなのかと特に進学校は自校の生徒に必ず共通試験を受けさせ、有名大学に何人とおったなどと競っている。学生は受かっても行かない。なぜ？

各校ともなぜ「難関国公立大学」なのか？ 国公立大学の定員はそんなに多くはなく、むしろ現実的には私立大学に多くの学生が進学している、公の学校が方針として国公立大学のみを目指そうというのはおかしい。私立大学を差別しているとは思えない。私学でも早慶をはじめ地方の国公立大学よりも難易度が高いところもあるし入学学生も多い。むしろ国公立や私学の枠を取り払い、オープンにしたほうがよい。

将来のことについて興味関心を高めるのもいいと思うが、今を大事に、懸命に取り組むことが必要と思う。

取り組みの効果は感じられない。

おおまかすぎてよくわからない。

自主性を養うのに具体的にどのような事を行っているのでしょうか？

■取組み3「ことばの教育県づくり」に関する自由意見(企業)

意見の概要

コミュニケーション力は企業にとっては必須であり、日常生活を通じ誰とでも、真のコミュニケーション(報告・連絡・相談)がとれるようご指導ください。

ことばの教育は非常に大事なものです。底上げを期待いたします。

ことばの教育は、日本の文化を伝承していく上で重要なことであり、かかせない、教育の基礎だと思うので、正しい言葉とは、なにか？よく勉強できる体制を作って欲しい。

非常に大切なことである。普段でも何が言いたいかわきなおす事が良くある。
ちなみに、パイロット...と言う言葉を使わないといけないのですか？カタカナにしなければ通じないのであれば仕方ないけど。

子供たちの正しい言葉遣いによるコミュニケーション能力向上のために
予算拡充を含めた取り組みをこれからも推進してほしい。

大切なことだと思います。

まさにそのとおり。

小学校においては、いろいろな賞へ応募したりしてよく取り組まれていると思います。

昨今、意思疎通が言葉ではなく電子文字に移行している感じを強く受ける中、言葉の教育は非常に重要な取り組みと考えます。

見学や体験学習での来場学生の言葉遣いの向上は最近、多少は実感できます。

この項目は大変重要なところだと思います。コミュニケーションや言葉の訓練に、演劇を取り入れることがとても有効と感じています。言葉、コミュニケーションの本来の目的が、自己表現に他ならないからです。

従来、国語教育の中でされるべきものなのだと思うが、説明能力、表現力について学習項目として力点を置く取り組みとしてスタートするという意味では期待できると考えます。

日本語が乱れつつある近況において、ことばの重要性を学習することは必要である。思考もことばで行っており、重要視されることに賛成である。しかし反面、ことばは時代とともに変わることも事実である。

「ことば」とは地域コミュニケーションを取り組み対象にしては？高齢者など昔のことを沢山知られていますが、非常に子供にとっても大切な事をご存知の方もその地域には沢山おられます。

最近、子供達の言葉遣いの悪さが目立ち、あいさつも出来ない子供も多いと思います。地域・家庭の大人達がしっかり声を掛けていければ良いのでは。

メール社会で育つ子供達に対し、大変重要な課題と考えます。言葉で気持ちを伝えることの大切さに注力してほしいと思います。家庭環境の方が大きいとは思いますが。

良いと思います。パイロット校で取得した結果を県内各校へ反映できればうれしいです。

パイロット校での成果を早く全校に普及させることを期待します。

現在のことばの状況から、パイロット校の指定ではなく、素早く教育を行うために、全校で行うほうが良いのではないかと。

読書の習慣が大切だと思う。

「読書の大切さ」を今以上にアピール、実施してほしい。

携帯電話、メールなどの普及で、コミュニケーションの形態が大きく変化しています。もっと「読書」の重要性を認識し、小さい時から本を読む習慣をつけることに取り組むことが大切だと思います。

美しい日本語(あわせて日本文化への)の基礎教育をお願いします。

造語の乱立で日本語の繊細さ美しさが失われるのではないかと危惧しています。低俗なマスメディアが子供達に与える影響が非常に大きいのではないのでしょうか。教育の場で言葉による学習発表の機会を数多く取り入れて欲しいと思います。

日本語について、しゃべるだけでなく、文法を教育してもらいたい。

先生に対して友達感覚で話しているので尊敬語、謙譲語等相手による言葉の遣い方を教育する必要があると思われる。

ことばの教育は読書、小説、詩、等を読み感受性を高める必要があると思う、
又、学校教育においてゆとり時間を利用して自然観察も行き、感じたことを発表させ、正しいことばを使う指導をおこなう。

■取組み3「ことばの教育県づくり」に関する自由意見(企業)

意見の概要

コミュニケーション能力のない子供が多い。少子化の影響が大きい。

年々、(採用活動時に感じますが)コミュニケーション能力が低下しているような気がします。パソコンなどのせいか、人と接する機会も減っているのではと思います。

パソコン、携帯メールでしか人とのコミュニケーションがとれない青少年が増えてきている。「ことばの教育」と同時に、意見発表の機会を増やす必要があるのではインターネット等の普及に伴い、子供達のコミュニケーション能力の低下が危惧されている中で、「ことばの教育」への取組みは大変良いことであり、今後取組みを強化していただきたい。

採用活動等で大学生の方々と会話する機会が多いのですが、ロジカルシンキング、コミュニケーション能力、相手へ自分の意見をきちんと伝える表現力が低下しているように感じます。

最近、耳や目にする日本語の乱れに対し憂慮しております。特に変な当て字や造語の氾濫、テレビで使われる間違った日本語などは放置していると「一所懸命」が「一生懸命」になってしまったように元の意味が分らなくなってしまう。

基本的な文章を書く能力、自分の意見を表現する能力が不足していることを感じることもある。

言葉遣いができていない社会人が増えているのは事実と思います。当病院の採用試験には「敬語、謙譲語」についての問題を入れるようにしています。

主張するだけのコミュニケーションに陥らないようにお願いできればと思います。

取り組みの効果は感じられない。

ことばの大切さを教えるのに教師がしゃべりすぎである、もっと子供たちの発言時間を増やすことのほうが重要。

就職担当の教師の方と接することがあるが、中にはことば能力に疑問のある人がいる。

人を泣かせる小論文や、高尚な言葉を駆使することは必要ない。グローバルのビジネスでは発揮できない能力です。何でもないことをシンプルに分かりやすく伝える技術はそれだけでビジネスの武器になります。

正しい言葉使いを日ごろから指導して戴きたい

感動出来る機会を多く持たせる事は、言葉の大事さを感じることが出来るのではないかな。

TV・ラジオ、報道の世界ですら言葉がおかしいと感じる。
教育だけでなく、こちらの方へも働きかける必要があるのでは？(既になっていると思うが)

子供達の言葉は、現在テレビの影響を色濃く受けていると思います。地域の取り組みも必要と思いますが、マスコミも含めて、対応していくことが重要だと思います。

人前で自分の意見をハッキリ言える、人の話を最後までじっくり聞ける能力を養ってほしいものです。

あまりにも日本語がだらしない使い方になり恥ずかしい

言葉は日々変化しています。国語的な言葉教育は逆に不用と思います。心、考え、その上で言葉の表現力の順番を守って欲しい。

自分の痛みには敏感で、表現力も増している気がするが、他人の痛みに対する推察力は高くなっている気がしない。

■取組み4「実践的な職業教育」に関する自由意見(企業)

意見の概要

企業としては、地域社会とのかかわりで企業活動が成り立っている。
インターンシップにより、地域社会とのつながりを取るのには、必要なことと考える。

取組み内容はとても重要なことと思います。
年度ごとに実績を評価して、見直しを行い、少しずつでも成果を挙げて頂きたいと思います。

昨今、高校卒業後に自分探しを始め、その答えが見つからぬままフリーターやニートに走る若年層が急激に増加していますが、その歯止めの意味でも早期から自分の適性や感性を見つめ、将来像を描くことが出来る職業教育は重要であると考えます。

近年はフリーター、ニート問題等もあり、生徒への職業教育への取組み強化が必要であると思います。

・地域企業と連携し、職場体験、就業体験を経験させることは大いに推進してもらいたい。

当社に昨年インターンシップ教育で1名受け入れましたが出来れば3～4名で来てもらえばよいと思います

中学生の職場体験が次年度から1週間(5日間)になるようだが、これも効果があることだと思う。但し、企業側がどこまできちんと対応するかで差が出るので企業任せにしないほうがよいと思う。

インターンシップも良いが、長期休暇のとき自分達学生の頃はいろいろなバイトをし、働きお金を頂きありがたさを知った。向き不向きを体験とおし知ることができた。一時期非行問題で自棄されたが改めても良いのではないか。インターンシップは無収入で、モチベーションも下がる。

インターンシップの日にちが問題、と思う。

地域貢献の一環として協力を率先して致したいと思い協力させて頂いていますが、実業務の遂行を妨げる面があるのは確かであり、苦慮しています。

職場体験は、学生にとって重要な経験だと思いますが、学生の職場体験に対する心構えが甘く、企業の負担が多いため、表面的な研修になりがちではないでしょうか。

非常に複雑化した職場を就職前に十分研究させることが必要である。そのためにも、インターンシップの実施は必要である。
また、職場がどのようなものか、教員も十分研究することが必要である

当施設でも職場体験を行っているが医療職になりたいと思えない生徒が混ざっているので、本当になりたい職業を体験できるシステム作りが今後の課題と思われる。

取組1の内容は、子どもたちに現場の職業体験を早いうちから、行うもののように見受けられます。もちろん良い結果が期待できる場合もあるでしょうか、良い結果を与えることができる現実の職場の数を子どもの数ほど見つけるのは、至難の業のように思えます。授業の中で、会社の仕組みや社会の仕組みを疑似体験させる、ロールプレイングやゲームのような教育システムの開発の方が現実的に思えます。

当社に、職場体験として来られる生徒さんは大変頑張っています。

広島市内の大学を対象に、仕事についての具体的な理解を深めるため、毎年インターンシップを実施しております。また、エリア内の小中学校の依頼に基づき、職場見学等も実施しております。

経済社会、職業、仕事について、年齢、役職に関係なく話の聞ける職場体験を実習生は、とても重視しているように思います。

職場体験など良い取組みだと思いますが、我社も含め難しい職場も多いと思います。

- 1.職場体験や就業体験(インターンシップ)に関して、企業側に対する目的の付与が不十分。
- 2.体験に来る生徒・学生にも目的意識を感じられない場合がある。
- 3.これは、技能の習得なのか、就職(働く)意義の確認か、ものづくりへの興味の付与かといった、基本コンセプトの事前協議が欲しい。
- 4.派遣期間の延長の依頼が多いが、負担が大きいことも認識して欲しい。

直接実体験をしてみないと分からないところが多いので、学生にはそういう場を多く経験してもらいたい。

仕事の喜びや大切さを子供の頃から体験させることが考えられます。単なる工場見学だけでなく子供達で協力して植物や動物を育てる作業を通して学ぶことが多くあるはずです。家事の手伝いをさせることも自然に労働を教える場であり、学校においては本人の個性と能力に適した進路指導をしてあげることが大切だと思います。

職業教育の中に挨拶、接遇(言葉使い)、服装などの項目はないのですか。特に挨拶、言葉使いが乱れているように感じます。

一例を挙げれば、ある程度の知識があったとしても挨拶がまともに出来なかったり、正しい敬語の使い方が出来なかったり、ごく基礎的なというか当たり前のことがないがしろにされていることが多い。

■取組み4「実践的な職業教育」に関する自由意見(企業)

意見の概要

社会生活の基本が出来ていないのでは？

例えば「挨拶」「時間厳守」「言葉づかい」「身だしなみ」など。学校生活までで、本当に必要なことは「キャリア教育」以前の基本的な事項をしっかりとし身につけることではないか？

「挨拶」など基本の大切さ、身につける事をより重要視して欲しい。

職業観や勤労観、基礎的な能力もちろん重要ですが、子供たちが自分の適性や嗜好に関して自己認識できるような機会を増やす取組みも加えていただきたいです。勉強が良くできるが不器用な外科医には見られたくないし、学校の先生は教育への強い情熱や子供への愛情を持つ人がなって欲しいからです。

職業へつく事への素晴らしさが教育されないままのような感じがする。スキルばかりが強調されてマインドが伝わらない。

職業教育も非常に大切な事ではありますが(現在のニートという現象に対し、今の社会を見てもっと道徳教育というものが大切なのではと感じております。ニートもそうですが“自分がやりたいことの前には大前提としてやらなければならない事”があるのでは？と感じます、またそれに対し我々(大人)が真摯に“生きる”という事を考える時期に来ているのでは、と感じます。

生徒だけではなく、教師が体験程度ではなく実社会に身を置いてみるべき

就職指導教諭に対して、企業における勤労観等を適切助言できる訓練を積まれているのか聞きたい。

行政や学校の期待度に対し、学生の熱意はそれほどでもない。
それは家庭的に恵まれ高校生では職業観も切実感も有していない。

高校で職業指導を受けるのが良いかどうか疑問を抱くことがある。
高校で習ったことしか目が向かない人がいる。

職業教育に行政が関与してはいけない。

小中学生では、色々な可能性を伸ばせる教育をしてほしい

学校によって取組み方に差があるように思える。

必要はとも感じるが過保護になりすぎること懸念する

大学に進学される方が多いし、技術水準など高いレベルになっているので、高校・中学などでの職業教育には、限界があるように思います。

都市集中型ではなく、系統的なキャリア教育を実施するためにも、地域性を重要視して地域産業と連結した構築を図り、企業ニーズの多様化、国際化の流れの中で、産学官民連携による人材育成システムの導入を考える。

上記の5つの項目は確かに理想的ではあるが、とても抽象的にとらえた様子も見える。
もっと身近な日常生活の中における一般常識を先に考えて欲しい。
本当に下記の12項目の取り組みができるとは思えない。

企業が求めるキャリアとギャップが感じられる。

学校での子供への職業教育のみでなく、子供の親を巻き込んだ職業教育のほうがより効果があると思う。
大多数の親が、職業教育を学校任せにしている現実を把握させる必要有り。

キャリア教育は、高校卒業者にとっては、必要かもしれないが、現在では、根強く学歴社会が残っているように思います。その中でキャリア教育が必要か？と疑問を持ちます。いい体験にはなるとしますので、実行してください。あと、月～金に行い、授業時間を削るのではなく、土曜日等を利用することを希望します。

私は、自営業ということもあって、共働きのため家庭生活の中で掃除や風呂沸かしや食器洗いなどを交代で行なっていましたが、最近はそのような家庭教育が足りないように感じます。その分、家庭教育以外でも企業や学校で補っていかざるを得ないと思います。

私の娘が現在福山の公立高校に通い就職を希望しておりますが進学校であるため就職希望者を対象としたカリキュラムの中に簿記がありましたが人数が少ないという理由で削除され家庭科のようなものを選択せられ目標を失ったと聞きました。簿記は就職した際に確実に役に立つものですが家庭科はどうなのでしょう、例えば1人であっても必ず役に立つことを教えるべきではないでしょうか。現場は真剣なのでしょうが

職業教育を行うことによって、通常教育の大切さを生徒に意識付けること、つまり、職業教育と通常教育の橋渡しが重要だと考えます。また、見聞できる職業が物理的に限定されるので、逆に生徒の可能性を狭めてしまうミスリードが起きないか、心配です。

一般的な教育は当然必要ですが、子供たちの得意分野や意欲を持っている分野について、その才能や将来にかける夢を最大限引き出してやるのが、必要だと思います。

知識・技能は一般的でも、目が輝いている、活力ある生徒の育成が必要。

■取組み5「障害児教育充実」に関する自由意見(企業)

意見の概要

新しい視野での就職先の開拓先を望む

様々な障害を持つ人々が健常者と同じ立場で社会に参加出来る環境作りを行うとともに、早期から「生きる力」を身に付ける教育と進路指導を行うことを平行して進める施策に今後も期待します。

障害児を隔離するのではなく、社会の一員として一般人の中で、一緒に生活できるようなシステムができればいいと思う。

地域産業から講師を招請して、障害の状態に応じた専門教育を立案し、産学官民の連携による進路の支援を行っていただきたい。

大人の障害者であっても、就職に際しては困難を伴う状況であることから、子供たち一人ひとりが持つ可能性を最大限引き出すために、ある程度の能力開発を行うことは重要と考えます。

広島障害者職業能力開発校からも近年、紹介を受けて採用しているが、就労という意識付けと、躰がしっかりなされていて、その効用を実感している。特に自閉症のお子さんには、ワープロやCADのオペレーター的素養を認めているが、今後この方面での指導の充実を望みます。

自分の経験から小・中学校時代にろう学校との交流があったが、良い経験になっていると思う。こういう経験はお互いの理解のために必要である。

一人一人の障害の状態に応じた対応が必要だが、できるだけ一般の学生との関わりを持つことが、一般の学生にとっても大切だと思う。

学校教育の間から、可能な限り、障害者と健常者の垣根をはずし、触れ合う機会を増やすべきである。障害者教育とは視点がずれるが、障害者に対する理解を深めるためには健常者の側の教育が必要。ノーマライゼーションを広げるためには、学校教育は重要である。社会に出てからでは遅い。

障害の程度にもよりますが、できるだけ他の生徒と同じ環境で学べるのが望ましいと思います。すぐに養護学校へというのはどうかと思います。

人として生まれ人としての権利を遂行するためにも障害児童の可能性を伸ばしてあげることは当然と考えます。現場の教員の方々のご苦労は大変だと思いますが、教育への誇りを持ち進んで欲しいと思います。

児童生徒ひとりひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことは、将来、社会での自立を支援することにつながると考えます。生徒一人一人の障害の状態等に応じた支援を今後お願いします。

障害のある方でも、社会で活躍している人が多くいます。障害者も自信をもって社会生活が出来るよう、個性を伸ばす教育に取り組むことが大切だと感じています。

大切なことだと思います。

障害児教育の施策について、具体的にイメージすることが難しいと感じています。

障害の程度や種類によって、極めて多様な対応が必要とされるように思われます。

それぞれの状態の中で、自分に自信が持てる教育の推進や健全な子ども以上に社会との接点(社会人との接触、職場訪問など)が広がる教育が必要ではないかと思っています。

困りすぎでは逆効果と思います。私の友人に難聴夫婦がおり、昨年のNHK人間ドキュメントベストセレクションに選出されました。内容は子どもが女子競艇選手になる話でしたが、放送された世界中から便りが届いています。

当時、一番差別を受けたのが多かったのは、国や県など公的な制度の仕組みだったと聞いています。

障害児の通学のため、親が住居を変更する必要がないように何処の校区にいる障害児でもその校区の学校に通学できるように全ての学校で障害児を受け入れて欲しい。

障害児を受け入れる事が可能な学校が少ないと思います。

自分の得意な事・出来る事に特化して教育し、少しでも自立できるような教育がよいのでは。

基礎知識は必要と思うが、他の健常者と同じように教育するよりは、早く本人の特性を見極め、のばしてあげた方がよいと考える。

障害者を抱える親の負担・心配(障害者の将来等)を軽減させる取り組みが必要。

私の弟は「知的障害」ですが、感じるがあります。

それは、「一度集中すると非常に粘り強く継続力がある」ことです。逆にプレッシャーに対して、パニックを起こしやすいことです。サポートする部品や環境等で本人の良さが活かせるように企業と共に環境づくりや教育を行なっていくことは重要と思います。

障害者にどのように接すべきかを 健常者に対し教育することが必要

指導に当たっては愛情を持って、反復指導をお願いします。

障害児に関してオープンになり多くの人に理解してもらっているなど感じます

施策は、この通りだと思います。

障害児童の教育担当者は、意欲が低下しないようにすることが難しいと思います。

症状の程度が違う生徒と向かい合い指導されていると感じる。

できることから進めることが大切と考えます。一人一人での対応が可能かどうか気がなります。

■取組み5「障害児教育充実」に関する自由意見(企業)

意見の概要

障害児の方に対する対応は良くなってきているのではないかと思います。
障害児をもたれている保護者の方の意見をお聞きしたい部分です。

・歌い文句に終わらずに、献身的な取組みを推進してもらいたい。
(障害児を持っておられる家庭(家族)、又、関わっておられる職員、先生など、現場の体験を基に……)

日頃、障害児教育について馴染みがありませんが、気にはしています。もっとアピールし社会に認知してもらったほうが良いのではないのでしょうか。企業の障害者雇用率が低迷しているのは経営者レベルの認識がその方向に疎いのが原因の一つです。

専門的な事柄が多いと思うので、よくわかりません。

なかなか接することがなく、よくわかりません。

■取組み6「学校における体力向上」に関する自由意見(企業)

意見の概要

家庭や地域での遊びを通じた体力づくりが必要。
学校での体力づくりは、時間が無いと思います。

本来、体力や運動能力向上のための施策が行われること自体に疑問を感じます。普通の遊びの中で自然と体力や運動能力は培われるものであるはずですが、その遊び場を増やしたり遊び方を教えていくことが必要なのではないのでしょうか。

自然に体力が付く、場所・遊び方が少なくなりました。ゲーム・漫画の氾濫の中、どうしたらよいのだろう。小さいときから親、地域での時間の過ごし方が大事になっているのではないかと。親の啓蒙も必要ではないかと。小さい子供に判断力はないと思う。

昔に比べて、基礎体力の無さが目に付く。学校だけでなく、家庭でも屋外での、活動や遊びが増えるようなことを考えるべきだと思う。

体力づくりは非常に大切な事。色々なスポーツ等に取り組める環境を与えたい。

子供達の体力造り等も必要と思いますが、私達が子供の頃の海、山等の遊び場が減少しているため、外に出て遊ぶ機会が減っていると思います。テレビゲームの影響もあると思いますが…。遊び場の提供も合わせて開発していくことが子供達の体力向上に役立つことだと思います。

遊ぶ場所が学校以外ないのが現状です。
事件も多く日常の遊びの中で体力向上することが難しくなっています

外部の少年少女に対する体育活動に対して、学校側が場所の提供をもつべきでは。
屋休憩時間等に、教師が外に出ていっしょに遊んでいるのだろうか？
教師が子供に対して遊びを教える事も可能。

体力テストを実施することも大切ですが、子供が生活する環境自体が運動能力を低下させるものになっていることが問題。学校で体力をつくるのではなく日頃の生活環境を見直す必要があるのでは？

近くへ行くにも車で送り迎えする親が増えています。歩くという習慣が減ってきてるところにも体力低下の一因があるのではないかと思います。

重要だと思います。個人的には、野球やサッカーをしているのはいいが、送り迎えを車でしているようでは疑問です。日頃から歩いたりする意識が大切だと感じます。

体力は、人が生活していく上で、もっとも基礎となるものであるため、その向上は、必ず考えていかないとけない。そのリーダーを育てる教育も重要な問題であろうと思う。

体力向上は、子供たちの教育に必須ですから、これからも継続して取り組んでいただくと共に、全国平均が50%を超える取り組みをお願いします。

成長時期における体力向上は、将来の日本を支える基礎であり、推進していただきたい。努力はされていると思うが、実効性がなかなか見えない。

運動のできる子、勉強のできる子、人それぞれですから、運動能力も大いに育成していただきたいと思います。

必要と思う。

是非体力作りをお願いしたい。

続けて欲しいです。

身体の健康が心の健康につながる。引きこもり、ニートの問題も同根。小学生より食育を含めた健康管理教育を実施し、中学生から総合的な健康管理教育を充実し、自分自身の身体性を意識できるような教育が必要。

低年齢肥満対策が必要

体力、運動能力は校外活動も盛んに行われ、授業時間外にも練習を行うなど、積極的に取り組みは行われていると思います。
ただ、それ以前の問題として、将来の生活習慣病予防の取り組みとして、生活習慣や食生活についての教育もさらに必要と思います。

体力作りとともに肥満予防にも取り組む必要があると思います。

各個の能力を見極められる(得意分野を見出し伸ばせる)、指導者の育成を期待します。

生徒の体力低下が叫ばれ始めて久しいと思います。
体力作りにあたり、より専門知識をもたれたインストラクターを各学校に一人ぐらいは養成・選任いただき、生徒が楽しみながら、また効果を実感しながら取り組めるような、仕組みの創設を希望します。

専門のインストラクター、トレーナーを派遣して、実施された体力テストを基にその学校に適した指導カリキュラムを作成していただきたい。
クラブ活動においては、地方で埋れている選手を育成するためにスポーツのエキスパートを派遣していただき、広島県のスポーツ界の底上げをしていただきたい。

就職してくる生徒の体力のなさは就業していく上で、大きなマイナスとなる。

食生活の改善も必要と思われる。

特に朝食の必要性

食育についても取り組んで頂きたいと思います。

・競争心をもっと身に付けさせる工夫が必要。

競争の中で育むのが肝心だと思います。また、広島県は自然に恵まれた環境にあるのですから、自然の中での体力向上を図れませんか。自然との係わり合いが減少し、生徒指導上の諸問題が増加した一因のようにおもいます。

体を動かすことの楽しさを身をもって知らせることが必要だと思います。そのためには、楽しんで運動できるメニューの選択や、さらに上達したいと思う子どもに先に進ませることのできる指導員の養成や外部からの導入があればと思います。
指導者に限りがあることから、さらに上達を望む子どもに対しては、単校ではなく、広域的な対応を検討してはと思います。

体力向上は、学校だけでは限界があるのではないのでしょうか。地域のスポーツ活動と共同で取り組める施策を検討されてはどうでしょうか。

健康で体力のある子供でないと知力も向上しないと思います。室外での授業を体育以外でもどんどん取り入れるべきです。

■取組み6「学校における体力向上」に関する自由意見(企業)

意見の概要

ストレッチなどの準備体操からトレーニングの方法まで、体力づくりの正しい知識を持つことが大切。

昔と比べて体力や運動能力は著しく低下しているので、朝早く登校して継続的に走る等の訓練が必要と思われる。

体力・運動能力調査は絶対評価で行なうべきと思いますが運動能力を高める活動は一律に行なうのではなく児童の個性(調査結果)を理解した上での個々の対応が必要かと思えます。

体育系クラブ活動への参加

地域小学生ソフトボールコーチをしているのですが、基礎体力は昔と比べずいぶん落ちていると感じる。練習を積み重ねた子と、運動していない子とは、全く違う。(肥満以外での体の大きな子が、そのまま運動能力が高い子。と評価される風潮になっている)

飽食時代の落とし子とは思いますが、TVゲームに興じて外で遊ばない子が多いと聞きます。環境自体外には友達と遊ぶ場所も少なく防犯の上からも家に閉じこもるという事も仕方ないのかもしれませんが、教育の場で出来る限り、体力向上のカリキュラムを組むことが必要と考えます。

精神面においてひ弱な者が増加傾向にある。心身共に強靱なこどもの育成を求む(我慢強い、辛抱強い等の忍耐力)。

運動能力は向上しているかもしれないが、柔軟性に欠けている子供が多いように見受けられます。

体力を全国平均と比較する意味合いは、特別な研究領域の研究者以外は意味をなさないうばかりか、公表することに弊害がでていることになぜ役所の人は気づかないのか、あるいは知っているも職務上知らないことにしていたほうが良いと思っているのか？

無理のない指導を望みます。スポーツの得意不得意の子供がいます。無理押しのない指導を望みます。出来る子はどんどん伸ばして頂きたい。

■取組み7「生徒指導上の諸問題解決」に関する自由意見(企業)

意見の概要

子供は大人の鏡と言いますが、大人社会のゆがみが子供達に繁栄していることは事実と思います。子供を犠牲にして働かなくてはならない家庭、家族団欒の食事がとれない家庭などライフスタイルの変化とともに失ってゆくものが多いと思います。教育の場のみでは解決できない問題と考えます。

家庭の躰に問題があると思います。通学路に面しているとコーヒーカンの置き去り、投げ捨て、自転車盗みなど、親の倫理観が疑われることがあります。弱い人をいじめるのも、人としてのプライドがない気がします。

学校だけではなく親の責任が大であると考えます、親を教育する機会を作ることも大切ではないでしょうか？

親がまず、こどもに向かっていくことだと思います。学校での対応に厳しい親もいるとは思いますが、まず、家庭からと考えます。共働き社会、核家族社会の中でどうするかという視点も必要かと考えます。

難しい問題ですが、親がもっと子供と話す、接する努力をすべきでは？

家庭・学校・地域が気持ちを一つにして生活指導に取組む以外道は無いと思う。

学校と親とのコミュニケーションを密にすることで、早期発見、対応ができると思う。

家庭内での親のサポート不足やコミュニケーション不足などが問題であり学校と開かれた連携で子供たちを見守っていく必要がある。将来親になった時の子供に対する親の考えが理解できるよう教育する必要がある。勤労の体験など早めにさせてみるなど。

学校と家庭は教育の両輪である。両者の意思疎通が充分だろうか

学校、家庭、地域が一体となった取り組みが大切ではないでしょうか。現状は学校の先生に負担がかかっているのではないのでしょうか。もっとも地域との連携を検討されたいと思います。

家庭における教育(躰)が非常に大切なことで、学校が万能で勉強から躰まで全部面倒を見られるわけが無いことを世間に言うべきである。但し、学校の先生の資質にも問題がある場合があるし、親身な先生とそうでない先生を生徒は結構見抜いている。

先生の指導を強化してください。一般企業に比し余裕がありません。

常に教師が正しくて生徒を指導するといった高邁な態度ではダメだと思います。生徒の目線に立って生徒の悩みを共に考え解決していく姿勢が必要です。また暴力教師(態度、言葉)の発見と更生又は排除も必要と思います。

学校側には、特に担任の先生には、日頃の学校生活の中での生徒の行動や、言動等から「変化を敏感に察する」力を更に養っていただきたいと思います。

いじめについては、簡単には、なくならないと思うので、良い教師の配置を考えて、発生した時のきげんとした対応をしてもらい、よりよい教育環境を作るようにしてもらいたい。

担任の役割は非常に需要だと思います。不適切な対応で問題を大きくすることも多いと思います。担任への教育訓練が必要に思います。

学校の一室にスクールカウンセラーの先生がいらっしゃる事は承知していますが、本当に必要な子が行ける状況なのかという事には疑問を感じている。

スクールカウンセラー人員増強を検討してほしい。その為にも、予算は許す限り可能な範囲内にて。また、人員には学識経験者及び資格取得者のみでなく、過去の実経験者(不登校他)もカウンセラーの一員に加えてみては如何でしょうか？

不登校等の諸問題を解決する上で重要なのは、その諸問題の根底にある原因を子供から根気よく聞いてあげることだと思います。また、子供の想いを聞く上で、子供との信頼関係も大切であり、平素から家庭と関係機関が一体となった総合的な取組みが必要であると思います。形式的なカウンセラーの設置等では、問題の根本的な解決は図れないと思います。

思春期の女子中学生の場合、相談できない担任教員が増えていると聞く。きまって中年男性教員(特に体育教員)。相談できる(話が出来る)環境整備が前提ではないか。

不登校などの理由の本質を追求しないと、実効があがらないのではないか。相談等があれば迅速に対応ができる体制が必要である。

倫理、道徳教育の推進が必要。

生活環境、情報過多などの影響で子供自身の辛抱の限度が低すぎると思います。

施策では問題行動・不登校を起こす対象者に対する対応が主となっているような感じですが、彼らは社会・家庭での問題の被害者ではないでしょうか。まず、根本の問題を考える施策を県と国が真剣に考える必要があると思います。

活動の実績は感じられる。

・大いに推進してください。

特に切実な問題として、更なるご尽力を期待しております。

ぜひとも、継続して行ってください。

積極的な取り組みが必要です。

■取組み7「生徒指導上の諸問題解決」に関する自由意見(企業)

意見の概要

当然ですが、人間が人間を導くのですから大変です。
結果は十数年後に出るものであり、信じて取り組む強さを指導者側がまず持つこと。

近所に不登校の子がおりましたが結局不登校のまま義務教育を終りました。対応は十分だったとは思えませんが不登校ゼロを目指していただきたく希望します。

これらの問題は、子ども本人の問題であると同時に、子どもの親の持つ問題であると思います。親に対する支援、指導、カウンセリング、コーチングといった仕組みが望まれると思います。

地域コミュニケーションを取り組み対象にしては？高齢者など昔のことを沢山知られていらずし、非常に子供にとっても大切な事をご存知の方もその地域には沢山おられます。

暴力行為、いじめ、不登校、中途退社等実社会でも多く発生しています。まずは、先生方から直して。社会にできれば、もっとありますし、それは防げません。かといって、なくせば商売になりません。善悪についてもっと教えて欲しい。

多方面から青少年をケアできる場づくりを推進していただき、有害物(酒・タバコ・有害雑誌等)の規制強化をしていただきたい。

解決策が中心になっているが、問題行動が起こる真の原因を追究(真因は何なのか?)し、予防対策を中心にした取組みも必要と考えます。

遠因は生徒の甘やかしすぎ、過度の人権意識からこのように大きく変化したように思います。対策ばかりではいつまでたっても解決できないのでは。最近、躰の出来ない親、躰のできていない親が多いので。家庭教育では限界があるようです。対処療法よりは原因対策を優先すべきです。

不登校になる原因に、数学など授業に付いていけなくなるのが有ります。
どこでつまづいているか早く見つけ、サポートする施策も必要と考えます。

問題が発生してから、問題に対応することは、非常に難しいことと思います。
問題を起こさないような、道徳教育、常識やマナーを教えることも大事だと思います。保護者、教師にも啓蒙の必要があると思います。常識、マナーの無い教師や特に保護者が見受けられる気がします。

「小学生」時代から「道徳教育」の強化を望みます。

教員の強力な指導力の養成、
(例) 福山駅周辺の実態をどう考えるか。
先日生徒(多分中学生と思われる)の会話、人を殺しても2年で出られる。前科はつかんからな。こんな会話をしてました。人の命の大切さを、徹底的に教育する必要がある。理屈抜き

教師も、問題が表面化することを恐れ前向きに取り組めないのでは？
必ずしも教師一個人の問題では無いので、問題に対する専門部隊をつくり全員で解決するようにし、問題を表面化しやすくすると良いと思う

以外と学校の中で何が起きているかという情報は、保護者に対して学校側からはあまり公開されていない。

ボランティア・担当の先生への援助配慮が必要なのではと思います。

いじめが原因で進級が遅れた子がいます、今何とか学校に行っていますがどのような状態か全く判りません(家庭で話しが出来ない状況です)通知表が送られてきた時に遅刻が百何日、早退が何十日と書かれていますが学校からは状況報告は全くありません。もう大人だからとか、そんなことは家庭でとか言われますがそれが出来ない状況もあることを知って頂きたい。進級時にいきなり、実は単位が足りないの、なんてことにならないように

小学生時の集団登下校の徹底。

社内でもハラスメントの問題はあるが、解決は被害者の救済・ケアではなくいじめの要因の払拭こそが肝要と、アンケート調査等を行なっているが、簡単な問題でないことは実感できる。

期待するが、大変難しいテーマである。

■取組み8「豊かな心を育む教育」に関する自由意見(企業)

意見の概要

・家庭教育がポイント

家庭及び社会を巻き込まないと成果が出にくいのではないかな？

道徳を涵養していく為には学校教育よりも親の教育ではないかと思う。
就学前に基本的な取り組みをした方が効果があるのではないかな

モラル、コンプライアンス、倫理感については、残念なことには人生の先人である、老人でさえ「無い」人が目立つ。若者だけではないと感じる。社会全体で取り組みが必要なのではないかな。

学校だけではなく家庭環境も大切

まずは、親や先生が毅然とした態度で子供に接することが重要と思います。

児童のみでなく、教師、保護者への指導や働きかけも必要だと思います。

道徳感は物心がつく頃からのしつけから始まるので、親が見本となるので、親の道徳教育も必要と思われれます。とは言っても学校での教育も必要と思う、良心に訴えるような指導をして頂きたい。

地域活動との連携を今以上に強める必要性を思います。家庭教育以上に地域の大人が教育力を発揮することがあります。地域の活動の中で親は叱りませんが、本気で叱れる大人がたまにいらっしゃいます、いいことです。地域の子は宝と想うからでしょう。こうした大人から言葉、躰、道徳心等多くのことを学ぶのではないのでしょうか。残念ながらこうした大人が少なくなりました。

昨今エゴイズムの台頭とともに人を思う心が急速に失われているように感じます。常識の通らない大人社会の現状が子供達にも何がしかの影響を与えている気がします。人としての常識を子供達に教える道徳教育が第一と考えます。

道徳を教えるというのは、大変難しいことのように思えます。道徳的でない情報がテレビ、ネットに溢れています。道徳教育を行う教員側の十分な、準備や訓練が重要だと思います。とても奥が深い教育で困難も伴うと思いますが、子どもと教員がともに成長する素晴らしい機会になると思います。

非常に重要なテーマであるが、最近のTV番組などをみても、道徳などからは乖離した風景をよく見かける。学校でいくらがんばっても子供たちにはTVの影響が強く現れる。子供たちの生活環境からも捉える必要性を感じる。

豊かな物質社会が、豊かな心の育みを阻害しているのではないのでしょうか。社会や価値観が変化している現状認識のうえにたった取り組みが大切だと思います。

いくらテストのスコアが良くても、倫理観、道徳観のない子は、将来、不幸になります。ホリエモンがいい例でしょう。

責任感の無い・責任を背負う事を嫌う子供が増えてきていると思う。
みんな平均点で、みんなと同じであれば良いといった感じを子供から感じるのですが、
共産主義の社会ではないのに、人より出来る事が悪いような感じを受ける。

やはり道徳とか倫理は必要です。私は別に片寄った考えを持ってはいませんが自国に誇りを持たない先生が生徒に何を教えられるのか疑問です。国歌を否定する、国旗を否定する、あなたはどこの国の人ですかと言いたくなる先生が(日本人くらいのものでしょう平気で自国を否定する国は)何を教えられるのか説得力はないですね、このような状況のなかでは道徳教育はまず無理でしょう

教員の強力な指導力の養成、(例)福山駅周辺の実態をどう考えるか。
先日生徒(多分中学生と思われる)の会話、人を殺しても2年で出られる。前科はつかんからな。こんな会話をしました。人の命の大切さを、徹底的に教育する必要があります。

教員に対する道徳教育の必要性

指導が出来る教師の育成が必要

これらに加えて、低学年から「人生観」を醸成する内容があれば加齢した際に役立つようにも思う。
生きることの素晴らしさを教える内容などあれば良いと思う。これなしで、学力向上や言葉の問題に取り組んではいけないと思います。

命を大切にすることを怠っている子供が多いと思います

道徳とはなにかが伝わってこない。最重要事項と感じるが、教育方向が違っているのでは？

親に感謝し、先生に感謝し、社会に感謝するという原点に立ち返り、一所懸命取り組むことで達成感を味わったり、達成できず挫折し人の痛みや謙虚さを学ぶという場を作ることに、産学官が積極的に取り組むことはとても大切なことだと思います。

道徳の教育は、重要な問題であり、社会に出た時にも、モラルの高い人でないと、仕事もできるようなにはなりません。心の教育は、知識の勉強以上に重要な事だと思います。

戦後?教育で不足しているものは、道徳教育と歴史教育だと思います。
若者の道徳欠如は目に余るものがあります。

日本人本来が大切にしてきた道徳観や倫理観を大切に、豊かな社会の実現に取り組む施策に今後も期待します。

児童生徒による犯罪が頻繁に起こる現状を鑑み、徳育への取組みが今以上に必要ではないかと考えております。

大事なことだと思います。

非常に大切なことだと思います。

■取組み8「豊かな心を育む教育」に関する自由意見(企業)

意見の概要

道徳教育は多いにお願いいたします。

各校の取り組みがすばらしい。このまま続けてもらいたい。

パイオニアスピリッツを引き出せる、教育は必要だと思います。皆同一の教育では無く、いかに個性を引き出せるかが世界で通用する個人を育てることだと思います。難しいことだと思いますが、出る杭は打たれるではなく、個性を尊重する雰囲気も作っていくことが重要だと思います。

各界の第一人者の情熱に接することが大切だと思います。

道徳教育は座学でなく、近所の掃除や、ボランティアなど実践活動を通じて教えると良い気がします。

地域コミュニケーションを取り組み対象にしては？高齢者など昔のことを沢山知られてはいますし、非常に子供にとっても大切な事をご存知の方もその地域には沢山おられます。

「道徳の時間」を増やす事や、「道徳教育実践研究指定校」を増やすなど、もっと重要視して欲しい。

思いやりの心と暖かい気持ちの持てる青少年を育成してください。

特に「命の大切さ」を訴えてください。

夢を持って何事かに取り組んでいる人の講演など、話を聞く機会もつことも良いきっかけになる可能性がある。

映画といった疑似体験の場をもっと持ってもらいたい。ニーズの多様化は孤立化にも通じるから、共感できる題材を通してみんなで疑似体験から話し合えるような場が有ってもいいのでは？

生徒自らが経験する事が一番の教育ではないだろうか。

物を作る楽しみ、知らないことを知る楽しみなど、感動する場面を与え続けられるようになると良いと思う。

心をくじいてはならないが、鍛えるという視点を忘れないでもらいたい。

道徳のない子供達が多いと感じますので、予算をより多く確保してでも家庭、地域、教育機関が一体となった教育を進めていかれたい。

Integrityとコンプライアンスは企業でも非常に重要です。それがなぜ重要なのかを児童にもわかりやすく教えられると良いと思います。

命の大切さを学んでいくことはとても重要だと思います。本来学ぶべきことかどうかは別ですが。

IQよりEQを大切にしたい。人権尊重に関する教育は大事だと思います。

公共交通機関内での、携帯電話・座り込み・席の独占・ビン、カンの投げ捨て等高学年が低学年を指導している風景は現在では見受けられません。ひとりよがりの生徒が増えてきている感じで悲しいことです。

職場で他校の様子を聞くと同じ内容でも温度差がある。道徳教育のため先生方は資料作りに夜遅くまで準備されているが、資料を作ることに力が偏っていないか心配だ。資料は簡素で一枚で十分ではないのか。

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見(企業)

意見の概要

たくさんの方の職業がある中、「教育職」は別物と考えています。この施策も大切だとは思いますが、企業が行うマネジメントや人事管理・評価は教育の現場ではないものであるし、真の教育者が育たないのではないかと考えます。上位職の目ばかりを気にする教育者が多くなるのではないのでしょうか。

人が人を評価するのは非常に難しいと思います。均一的な指導を行なうのではなく先生達が指導方針を決めて提出させ校長と面接により、より良い指導ができ先生の指導力アップに努めて頂きたい。

生徒が教師を選ぶ、又は評価する制度を導入すれば教師の質の向上が図れるのではないのでしょうか。

「目標管理」の仕組みをより一層推進して欲しい。

種々、魅力ある先生がいてもいいことです。全て、体系的人事管理は生徒の全ての能力向上という目的から体系的項目が満たせられたらOKといった方向に向くのでと危惧しています。

教員の管理を徹底しすぎているのではないのでしょうか。管理資料の提出、管理項目の拡大等で、本来求められている業務推進課題を果たしているかのような風潮があるのでは。確かに目に見える結果ではありますが、決して効果は上がりません。実態を直視しましょう。企業でも管理項目が多いとその報告作業に終始し、本来の仕事が疎かになります。管理資料さえあればこれを金科玉条

人事管理の適正化がなされているとは思えません。

教員の評価システムが不明。研修は絶対必要だが、意外と教員自身に唯我独尊的な人が多い。

教職員の人事考課は非常に重要と考えます。夏季休暇中などにおける自宅勤務の際などの研修レポートにおいては、考えられないくらい程度が悪いものがあると聞きます。そういう教員を、当たり前として扱って欲しくない。悪い者は悪い、という評価付けを行い、水準の向上をお願いしたい。

学校が組織的に運営され、教職員が、個々の力を最大限発揮できるような体制を作っていくべきだと思います

教職員の日ごろからの心のケアが必要。何か大きな問題が起こってからでは遅いのでは。

子供達により良い教育を行うため教材等の準備にがんばっておられるが、日曜日は休もう。灯りが付いてる。リフレッシュし、元気に子どもと接してほしい。

教員の皆さんが生徒さんへ「夢」を与えられるような、おらかな環境を考慮して欲しい。

教員にブラッシュアップの機会を与えることは、いいことです。

教職員の資質は年々低下しており、研修カリキュラム等全面的に見直すべきだと思う。

教職員の能力については、よくわかりませんが、夏休みや冬休みを利用した、学校外の実体験などに取り組んでみたらどうでしょうか。

とても重要であり、いままでやっていないことの方が不思議なくらいです。指導力向上の研修が進むにつれ、新たなそして実践的な教育理論も生まれてくるだろうとおもいます。

総じて思いますに、教職員の皆様は、生徒・保護者に遠慮し過ぎではないのでしょうか？ここが大切ですが「本当に生徒の為になること」であれば、生徒・保護者への叱咤激励が必要な場合もあると思います。そのためには日頃からお互いが理解しあい、信頼関係を築いていけるよう、それを優先して取り組んでいただきたいと考えます。

人は人によってつくられると言いますが、教員の方々は誇りを持ち、人間教育へ尽力して欲しいと願います。

教職員の質は上がってきていると感じます。

“揚げば尊し”が教員の理想像と考えます。

聖職ですので友達感覚での指導はしてほしくない。

将来を背負う子供達を育てるには、教員の資質向上は絶対に必要だと思います。

教員によって指導力に差が付き過ぎないように、向上をして欲しい。

教員の質の向上

教育において難しい問題と思いますが、目的を持った教育ではないのでしょうか。子供に視点を置いた教育者の育成なども考えられます。

その指導力の結果が、児童の学力、生活態度、ひいては成長後の社会生活にも表れるとすれば、教職員の資質は低下しているように思います。できれば、先生と呼ばれるにふさわしい責任感、人格、指導力、威厳を持つように努力していただきたいと思います。

教職員に多くを望み過ぎるのではないのでしょうか？民間に委託する部分もこれからは必要ではないのでしょうか？

問題があるとすれば、先生という職のサラリーマン化と、先生方を取り巻く環境だと思います。

職場体験の際などの打合せで、学校の先生方と接する機会がありますが、妙に違和感を感じます。社会をもっと知るべきではないのでしょうか？文部科学省の指導でなければいけないのでは。受け入れる側のリスクも理解されていないことがあります。

民間派遣研修を大いに推進。

先生が、井の中の蛙にならない事。

■取組み9「教職員の資質・指導力の向上」に関する自由意見(企業)

意見の概要

教職員という閉鎖された社会の中でのみでの能力向上より、民間人等のサラリーマン経験者などを何%か採用し、教職員内部から広く社会の見識をもつ必要があると思う。

民間企業・塾・専門学校での研修に大いに参加して欲しいと思います。

学校内は世間の常識から隔絶される傾向があるので、社会性の確保が重要だと思います。(私の子供の通う学校では目標のことを”めあて”といいます、学校の外ではあまり使わない用法だと思います。)また著作権などへの対応もいかげんさが見られます。

とくに教職員のモラルの向上をお願いしたいと思います。ときおり、あまりにも一般社会とはかけ離れた考え方、人格をお持ちの方も見かけられますので。

教師によって考え方の違いがあるのではないかとというのが実感である。当然の部分もあるが、全体的にもう少し社会一般に目を向けることも必要と思う。

特に教員は、民間企業での就労経験を義務付けるなどの施策を行なうことが出来ないかと思えます。中には、社会性が不足している指導者がいるように感じます。

教職員も、積極的に異業種の間人との交流を図り、自己研鑽に励むべきだと思う。子供に対して、教える者としてのプライドを持つべきであり、又子供達は教えてもらう為のルールを作るべき。

近頃教員が、問題を起こすことが、多いような気がします。教員のモラルの向上も、ぜひ図るようにして欲しい所です。

人員数などではなく、レベルが低すぎる。教育して最終的に何にするのか、大多数はサラリーマンでしょう。サラリーマンの経験が教師キャリアの中に絶対必要！みんな学者、公務員だと日本は滅びる！

うわさですが、立ち歩く生徒を指導できなかつたり、教員の不正がニュースになったりしていますが、質の向上を是非していただきたい。親との共同作業もあると思えます。

低位能力の教員は、教員資格免許を剥奪する等、評価と信賞必罰を民間企業並にしてもらいたい。県教員という枠の中で甘やかさないでもらいたい。

不適切な教員には、お辞めいただきたい

新聞にのるような教員は資格なし。即刻辞めさせるべき。

子供のことに對して無関心と思われる教師がいる。教師に不向きな人間は教育現場以外の部署に配置しなければならない。

教職員のレベル差が非常に大きくなっていると痛感します。

また、やる気のない先生もいらつしやるようで、非常に困惑しています。

いい先生が多いことは、認めますが・・・今一度、教職員の方のやる気を起こさせる状況を作ることも必要と思えます。現在は、父兄に対して、教職員の立場が非常に低くなっていることも原因だと思います。具体的な施策は判りませんが、参考になればと思います。

各教科の教員の質のバラツキが大きすぎる。特に体育教員の質の低さのにはあきれられるばかりだ。話題といえば競輪、競馬、パチンコばかり。あ～、なげかわしい。校長の権限強化と校長になる人の人格が大事、いくら民間出身でもオーナー経営者じゃないと「雇われ意識」強く、責任感がもてない。

仕方なく教員になる人が多いのではないだろうか。人を育てる意欲が、余り感じられない。

教員の人間性の問題では？

代替教員を派遣することで、研修による授業の欠落もなく、ベテラン先生方に対応いただいている学校もありとてもいいことだと思います。

臨採、非常勤が多すぎるのではないか。また、教員の若返りも必要

生徒の前にまず先生を、そしてPTAをと思います。今の子供と同じように誉められ肯定されるだけで育ってきた、携帯やゲームなど自分独りの世界で育ち真剣にコミュニケーションを取ることを知らずに難しさを知らずに育った先生や親が今ほとんどではないでしょうか。学力も人材育成もそれからではないかと思えます

思うことはありますが、まだ子供が通学中のため、思う事はいえません。

資質・指導力の向上の前にやらなければならない事があるのでは？

■取組み10「学校教育改革推進」に関する自由意見(企業)

意見の概要

強力に推進すべきである。

非常に良いことだと思います

大切な取り組みだと思います。

教育改革推進懇談会の参考意見等に的確な問題提示がなされているので、積極的に取り組んでほしい。家庭の教育力の低下は問題です。例 授業参観での雑談は考えられない。おしゃべりする当事者は気が付かないだけ、こうした環境では子供も授業中に歩き回ってしまう。教師が厳しく父母に注意をすべきである。多くの父母は心のなかでそうおもうのでは。

学校経営に企業人を導入する取り組みは一定の成果が期待されます。モニター制度などを活用され学校以外の意見を取り入れることは大変大切だと感じます。

モニターは必要です。もっと小さな範囲での制度があれば良いと思います。

教育モニター制度を十分生かして頂きたい。

教育モニター制度の継続と意見の教育現場への反映を望みます。

教育モニター制度は有益であり、ここで出た意見等を積極的に活用し、教育改革を促進していただきたい。

改革は誰が主役になって行かうかが重要と思います。
そのためには、外部の意見も取り入れなければいけないでしょうし、有意義な有識者の意見も取り入れなければいけないと思う。

戦中、戦後まもなくの人(一般人も含め)と何日か合宿のような形で過ごして意見交換してはどうでしょうか、本当の問題点が見つかるかもしれませんよ

官民一体となって教育現場を改善する取り組みには今後も期待しています。

人事制度を活用した管理職の水準向上も併せて必要と考えます。
ぜひとも、取り組んでいただきたい。ただ、教員側の反発も考えられますので、尾道で起こった民間人校長の自殺のような校長と教職員の対立、特に、教職員が校長に反逆するようなケースには徹底した対処をお願いしたい。

リーダー不在が最大の問題だとおもいます。校長が強力なリーダーシップを発揮できるような支援体制づくりは最も必要なことだと思います。

管理職の権限強化だけでなく、「管理者とは」を民間の経営者から学ぶべき。
それからの人選になる。

エキスパート教員の認証に付いては、マンネリ化などでレベルが保てなくなった場合は、取り消す必要が有ります。

イメージがつかめない
教頭を補佐するものの方が先ではないかと思う。
どの学校(小・中・高)も教頭が遅く、雑務が多すぎる。
教団に立つべきと思う。現場を知らなきやいいカリキュラムも生まれません。

特色ある学校は生徒たちにとっても魅力的だが、どれだけの学校が特色を出せるかは疑問が残る。その学校の、教員の資質・指導力が問われるのではないか。

学校も一つの経営体であり、その教育をアピールすることも重要な事だと思います。

どんな教育をしているのか、保護者の授業参観しがなく、一般人が見ることは不可です。これで意見を求められても、もっと開放をしたらと思います。安全で臆病になっている気がします。

一般企業の社員に比し苦勞がすくないのでは。解雇されることの恐れを教員に教えてください。

一般論より、具体的な各校ごとの評価や、意見交換会をやる方が良い。

クラス編成の人数を今より少なくしてほしい。(小人数制)

■取組み11「開かれた学校づくり」に関する自由意見(企業)

意見の概要

これからも、学校と地域と家庭が一体となって教育に取り組めるよう、コミュニケーションの確立と調和をお願いしたい。

父親の会が必要。特に小学校は女性社会。活発な男子を理解できていないことがある。わが子のクラスが学級崩壊したのも、「2年続けて運動会にて読売巨人軍の応援歌で踊らされたこと。」広島カープファンの子達には「踏み絵」となったこと。女性中心の職場では理解されなかった。

自分の子どもがいるいないに関わらず、授業参観できる仕組みは作れないでしょうか？安全上の問題等あるとは思いますが。

保護者を学校に集めるのではなく、集まってくる。グラウンドを開放して早朝夜間の散歩に使わせるなど。今は地域社会より会社社会の方が強い。親の背中を見て子供は育つと思う。

地域と学校の共催行事をすれば、自然と地域の方々との連携が深められると考えられる。

保護者が学校へ行きやすい体制を作る。保護者・地域の人と一緒に出来そうな行事等を作ってみれば良いかと思えます。

しりませんでした。良いことです。もっとPRしてください。学校行事として地域(自治体単位でも)ともしっかりと交流をもつたらどうでしょう。地域活動は子供会が中心ですが、子供会にはいない子もいますし、子供会活動の指導者の資質の問題もすくなくあるので、このあたりをもっと有効活用すれば取組みに活けるとおもいます。

学校へ保護者や地域の方が行くことは、学校の質の向上や生徒の安定のために重要だとおもいます。ここ最近、不審者の問題等で、学校も門が閉ざされ、閉鎖的傾向に流れてしまっていると思います。地域の方が科目によっては、中学生といっしょに授業を受けられるくらいの体制をとるほうが、学校内の治安も維持しやすいとおもいます。

OB、OGも母校を訪ねる機会、地域住民、老人会との生徒、学校教職員の交流の場をもっとできないものではないでしょうか。

積極的に学校運営に参加する。本当に学校側が受け入れるのか。具体的な参加方法等を公開すべきである。

特定の保護者ばかりが参加しているように見受けられます。

各学校のホームページ等による情報開示は、非常によい事だと思います。

町内会の回覧で、小中学校の学校だよりが入っており、読んでいるが、学校の雰囲気がかいま見ることができ学校に対して親しみがわく様になった。

いいところはどんどんアピールすることだと思います。

情報公開は大切だと思います。HPや、中学校だよりなどは、よく目にします。

情報公開は非常に重要です。開かれた学校づくりは保護者・地域社会に信頼と安心を与えます。ただ、「学校へ行く週間」のみ作られた授業や環境を感じたことも事実です。飾らないそのままの日常生活を見せてほしいとおもいます。

更に情報公開につとめてください

地域へ学校情報が伝わってこない。

何か問題が起きたら包み隠さず情報開示して、皆で解決すること。

クラス担任によるホームページを是非行なって頂きたい、しかしこれにより先生に過分の負担は避けたい。非常勤の方をふやして活用されたし。

学校での取り組みを積極的に公開していこうという姿勢を感じています。しかし、説明のしかたがいかに「おしえてやっている」的な文書しかないので、読んでみればさっぱりわからないし、わかる必要もないものばかりで失望しています。

学校の評価は非常に難しい問題と思う。評価項目できれいに評価できるかは疑問である。校風のような見えないものもあり、生徒にはその雰囲気が重要であると考える。また情報発信は重要であり、地域との連携も重要である。

安全にも配慮して、実施して欲しいです。

良いことだと思います。

開かれた学校づくりは大切だと考えています。学校サイドの負担は増大するでしょうが進めて頂きたいと思います。

開かれた学校の意味や意義が有益に作用しているのか、疑問に思います。

あまり必要とは思っていません。

縁がないのか知らないから、やっているなら良い。

いつから実施されているのですか、初めて知りました。

■取組み12「県立学校の施設設備整備」に関する自由意見(企業)

意見の概要

教育に熱心な県として、まずは校舎建築費に重点配分してもらいたい。

施設の整備は、技術革新のスピードが速いこの時代には不可欠だと思います。予算も必要でしょうが計画的に進めて頂きたいと思います。

良好な施設は、良い生徒も入りたがりです。ぜひ、施設の改修は、予算の許す限りやってもらいたいと思います。

是非すすめてください。

積極的に前倒しで進めて欲しい。

本人の学びたいという気持ちがあって、初めて学習に結びつくはず。そこを間違えないような設備投資を

リフレッシュは進めて頂きたい、過疎地域にも力を。

学習環境が劣悪な学校が多く、改善を望みます。

施設・備品・器具など気の毒な水準だと感じています。急には、整備できないでしょうが、母校への寄付なども導入して改善して欲しいです。

空調機器の整備で、夏、冬勉強に集中できる環境を整えることが急がれます。

私は、建築設備工事業に従事していますが、職業を抜きにして、新築校舎を建設する場合は、ぜひ、木造校舎にしていってほしいと思います。木の香りの中、足にやさしい等、計り知れないメリットがあると思います。

あと、上履きも現在のようなタイプではなく、子供達の足にやさしいタイプに変更していただきたいと思っています。

昨今、非常にデザインにこった校舎などがTVで紹介されていますが、過度な設備投資はいかかなものかと思っています。校舎の外見でなく、学校の内容充実さに注力してほしいです。

設備投資もよいと思いますが、今ある設備を丁寧に使用する教育が必要では。自己管理のもと、生徒自らが進んでものを大事にするようになることは、社会に出て非常に大事だと思います。

総合技術高校に期待しております

総合技術高校に期待しております

新しいタイプの専門高校である総合技術高校を整備は賛成です。技術国日本の高いレベルを取り戻したいですね。

総合技術高校の生徒さんの見学を最近受け入れ、新たな人材育成の基盤作りを感じた。ただし、知識技能の習得のみに腐心するのではなく、観察力・洞察力といった、基本能力の必要性を説き、養成を行なって欲しい。(企業は入社後にも必要な技能は教えこめるが、基本素養は早いうちから養わないと実践では遅れを取るようになる。

時代の流れに沿い、医療・福祉系の専門学校(高校程度)を創設してはいいか？看護師・看護補助者は将来完全に不足する。

地方に埋れる多くの優秀なスポーツ選手の育成、非行防止、スポーツ指導者の養成のためにも、多くの生徒が参加できるように一定のエリア圏を設定して、体育コース等を設置したモデル校を配置し、産学官民が一体となり、地域の活性化を図り、広島県のスポーツ界の底上げをしていただきたい。

学校の再編問題については、PTAを含む地域の方々の意見聴取を行い検討すべきである。

県立学校と市立学校の格差が大きいうである。最低限実現しなければならない基準はクリアしていると思われるが、同じ公立学校としては、違いが大きいような気がする。生徒の安全にかかわる事項については、徹底的にこだわるべきであろう。

子供達が1日の大半を過ごす学校の安全性を高めることは、今後も強く期待します。また、様々な方向性や進路に対応するための教育機関の整備も社会の急務であると思います。施策に期待しています。

今注目されているアスベスト対策は対応されているとは思いますが内容に盛込まれないのですか？

耐震対策は全ての教育機関が行うべきであり、環境づくりが必要だと思います。

老朽校舎の改築は安全面から必要と思いますが、これからの少子化に適した規模と設備にすべきと思います。無駄な空き教室や設備も多い様に思います。場合によっては老朽校舎の改築より隣接校への統合も考慮すべき。学力向上は校舎を立派にするより授業内容を充実した方が有効です。

地域が被災したときの避難場所として学校の体育館が重要。そのいざというときの設備が整っているか？ すぐ予算の話がでてきて立ち消えになるこの種の話は、被害が起きてから考えようという役所の悪い職癖である。民間企業だとすぐリスク管理は経営者の責任にされてしまうが、このような未整備の施設を放置しておくことは、別の意味での人災になる。

子供たちの能力や夢を最大限引き出すために、新しい取り組みにはぜひともチャレンジしていただきたい。

地場産業の必要とする人材を早くから育てる(技能習得も含めて)ことは企業の大きな力になり、生徒さんの就職率も上がると思います。

少子化等の問題により統合が進んでいるが、学校閉鎖された場所の使い方等を、地域にあった要望により、より良くなるよう検討して欲しい。

高校を専門科すると言うのは、社会にでても必要でないことはやらないという事であれば、社会にでても必要なロジカルな思考をするという事に支障はでないのか心配である。